
平成27年第4回玖珠町議会定例会会議録(第3号)

平成27年9月15日(火)

1. 議事日程第3号

平成27年9月15日(火) 午前10時開議

第1 一般質問

1. 本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

出席議員(14名)

1 番	松 下 善 法	2 番	大 野 元 秀
3 番	小 幡 幸 範	4 番	松 本 真由美
5 番	中 尾 拓	6 番	中 川 英 則
7 番	廣 澤 俊 幸	8 番	宿 利 忠 明
9 番	石 井 龍 文	10番	河 野 博 文
11番	高 田 修 治	12番	藤 本 勝 美
13番	繁 田 弘 司	14番	秦 時 雄

欠席議員(なし)

職務のため議場に出席した者の職氏名

事務局 長 帆 足 浩 一 議事係 長 小 野 英 一

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

町 長	朝 倉 浩 平	副 町 長	小 幡 岳 久
教 育 長	秋 吉 徹 成	総 務 課 長	麻 生 太 一
まちづくり 推 進 課 長	穴 本 芳 雄	総合戦略室長	衛 藤 正

環境防災課長兼 基地対策室長	藤 林 民 也	税 務 課 長	石 井 信 彦
福祉保健課長	江 藤 幸 徳	住 民 課 長	衛 藤 善 生
建設水道課長	梅 木 良 政	農林業振興課長兼 農業委員会 事務局 長	湯 浅 詩 朗
商工観光振興 課 長	村 木 賢 二	会計管理者兼 会 計 課 長	本 松 豊 美
人権同和啓発 センター所長	山 本 五十六	教育総務課長兼 新中学校開校 推 進 室 長	長 尾 孝 宏
学校教育課長	佐 藤 貴 司	社会教育課長兼 中央公民館長兼 わらべの館館長	渡 辺 克 之
行 政 係 長	和 田 育 男		

午前10時00分開議

○議 長（秦 時雄君） おはようございます。

開会に先立ちまして、傍聴される皆さんにお願いします。

会議中は静粛にお願いします。

なお、会議中の言論に対し、拍手や可否表明などの言動はかたく禁じられております。

また、会議の傍聴規則第7条並びに第9条の規定により、写真撮影や録音機器の使用は禁止されています。携帯電話、スマートフォンをお持ちの方は、電源をお切りになるかマナーモードに設定されますよう、ご協力をお願いします。

また、本日は議会だより掲載のため写真撮影を許可しています。

ただいまの出席議員は14名です。

会議の定足数に達しております。

直ちに本会議を再開し、本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

○議 長（秦 時雄君） 日程第1、これより一般質問を行います。

質問者は、一般質問表の順序によりこれを許します。

本定例会の質問者は5名です。よって、本日15日の1日間でいきます。会議の進行にご協力をお願いします。

最初の質問者は、12番藤本勝美君。

○12番（藤本勝美君） おはようございます。12番藤本です。

久しぶりの一般質問でございますが、よろしくお願ひしたいと思います。

せんだってからの日本列島、東北では大変な災害が出ております。それから、昨日には阿蘇山の噴火、南は沖縄のほうでいろいろともめております。日本列島が揺れに揺れておる昨今でございますが、本当に東北のあの災害、悲惨な災害、心よりお見舞いを申し上げるところでございます。

我が玖珠町にも昭和28年の大災害がございました。これに匹敵する以上の、あれ以上の災害であろうかと思いますが、玖珠にいつこういった災害が起こるかもわかりません。今月は防災の月でもございますが、どうかひとつ玖珠にこういった大災害が玖珠盆地にないことを念ずる一人でございます。あってはなりませんからね。かといって、いつ来るかもわかりません。ないことを念じておる一人でございます。

それでは、一般質問に入らせていただきますが、先刻通知をしております順に沿って質問したいと思っております。

まず、玖珠町内の観光地について、観光地PRと現在取り組んでいる各施設整備へのスピード感を持ってやったらどうか、現状の各施設の進捗状況について伺いたいと思っております。

まず、伐株山の展望台に休憩舎をつくるというようなこともございました。それから、久留島記念館が予算はついてやろうとしておるのに、なかなか前向きに進展しておらない、旧久留島邸、それから、角牟礼城跡、機関庫など、それから、三日月の滝、いろんな玖珠町に観光資源がございます。その観光資源がどうも生かされていないと。もう前々から私どもは何回もこの観光地ですね。玖珠町に観光客が1日中おって観光できるというところ、そういった観光地に仕上げてもらいたい。だから、今ある点々の観光地を線をつないで面にして、線をつながれないか。これはどちらでもいいんですが、そういった方向で観光客が長く玖珠町に滞在できるようにやっていただけないかということで、先輩方も言っておりますが、私も何回か一般質問で言ったことがございます。そういったところをいかなものか担当課に聞きたいと思っております。

○議長（秦 時雄君） 穴本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（穴本芳雄君） おはようございます。私のほうから議員お尋ねの1番目の施設の進捗状況ということで、まちづくり推進課が担当しています施設整備についてお答えします。

現在私どもが行っている整備は、ご存じのように水戸岡氏より出されましたデザインの具現化でございます。豊後森駅前広場、機関庫及び周辺、機関庫から駅前商店街の活性化策、旧久留島氏庭園から森地区の街並み、伐株山の5地区についてデザイン化をしていただくこととしておりました。そのうち豊後森駅前広場は平成26年3月に完成、また、同じ年でございますけれども、町負担により駅舎トイレが改修をされました。豊後森駅前通りにつきましては、空き店舗活用によるミニギャラリーと、それから、のれんによる修景の提案がございましたので、昨年末よりミニギャラリーを設置し、通りの方々の協力により、のれん修景も進んでおるところでございます。機関庫からのお客様が通りに足を運んでいただければ、そこに何がしかの経済活動が生まれることを期待しているものです。

それから、機関庫周辺整備は、ミニSLの設置、25年度に整備をしましたけれども、公園化に向けた整備では、まず、進入路整備が待たれておりましたので、JR九州と協働して整備を進めてきたわ

けですが、ほぼ完成に近づいているというところでございます。機関庫周辺としましては、11月には完成予定の機関庫ミュージアムでございます。

森街並みにつきましては、これまで久留島記念館として利用させていただいておりました家屋を荒木様より寄附していただきましたので、そこを改築しまして、情報発信施設としてオープンできるよう、整備途中でございますが、ご存じのように6月議会で申し上げましたとおり中断中でございます。この施設は水戸岡氏と山口氏が直接話し合いをしまして、山口氏が全て整備にかかわるようになりましたので、山口氏の意向に沿えるよう、山口氏と協議に協議を重ねて、3月完成に向け整備を進めているところでございます。

伐株山展望休憩舎につきましては、当初秋完成と考えていましたが、耐久度、埋蔵文化財の関連などによりまして、来年3月完成に向け取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 観光地としてのPRでございますが、観光を振興させるための素材には、その目的物、例えば歴史的な文化的遺産、温泉、自然景観、建物、農産物、お土産、四季折々の各イベント等がございますが、そして、玖珠町独特の地域の特別なサービスなどが考えられます。

我が玖珠町は、おとぎ話に出てくるような自然環境とおいしいものがたくさんあり、他地域に比べましても、観光素材がたくさん存在しているところでございます。今後の観光地域整備につきましては、先ほどまちづくり推進課長は申し上げましたが、これらの恵まれた観光素材を守り、観光的交流人口の増加に向けた整備を進め、観光振興に不可欠な宣伝、情報発信についても、これまでのような紙ベースの情報発信のみでなく、町のホームページの充実、観光協会のホームページとのリンク、若者世代で流行しているフェイスブック、ツイッターなどのシステムを有効利用するなど、日本、さらには世界に向けた情報発信に取り組み、積極的に玖珠町の観光素材をPRしてまいりたいと思います。

先ほど世界と申しましたが、ちなみに来年3月行われます台湾での日本が代表して出るイベントに玖珠町のこいのぼり、森の住民の方々に運営していただいている赤こいのぼり、これを持ってきてくれないかというふうなオファーが来ております。町としては積極的に、前向きにこのことについては検討して、何とか行きたいというふうにご考えておるところでございます。

それから、最近においては、玖珠町観光協会の方々の頑張り、それから、ボランティアガイドの皆さん、地域コミュニティの方々のご協力によりまして、玖珠町の観光PR、その成果が出始めまして、機関庫や森の街並み、伐株山などの観光スポットが多く新聞、雑誌、テレビなどマスコミ各社に取り上げられ、その成果として玖珠町を訪れる観光客が年々ふえていると、このことは実感できているところでございます。観光担当といたしましては、商工会関係者を初めとする住民の皆様、年々ふえている観光客を対象にしたアイデアを凝らしたお土産や食の開発、これまで玖珠町が取り組んでこなかった観光客を相手にしたおもてなしなど、時期や状況を捉えた経済効果、住民の方の収益につな

がるシステムの取り組みを期待しているところであります。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 12番藤本勝美君。

○12番（藤本勝美君） 大体説明を受けたんですが、私が言いたいのは、スピードがないというんですよ。皆さん方、今、まちづくり推進課長、商工観光課長、この接点がもう少し、もうちょっとつながりがスムーズに行ける説明があるでしょうが、私どもから見ると、それが見受けられない。やはりこれはまちづくり推進課、私の担当しておるところでございますが、そこの課の中に観光課はまた別に課長さん、同格の課長さんがおる。総合戦略室長さん、これまたまちづくりの中にあります。そういった人たちが常にいつもテーブルについてどうしよう、こうしようという作戦を練ってやれば、これはスピードも上がるし、予算化も早くできるんじゃないかなと。そこらがどうも見受けられなくて、それぞれの動きが単独に動いているように見えます。

うちは課長制ですから部長がいませんので、統括するような部長というようなものはございませんが、そこらを何かもう少しうまく組織をつくり変えたらどうかと。課長及びその下に係長、各係の係長がいると。係長に降格するわけにはいかないでしょう。課長さんは別の段に置いて部長をつくらうらどうですか。そういったやり方でもしないと観光地がスピードアップされないと。スピードを上げて、その施設が生かされてこないのではないかとこのところが心配されます。

この前、山口怜子先生に議会に来ていただいて、全員協議会の中で勉強会をしました。そのときも私は最後に山口氏に聞いたわけでございますが、聞いたというか、皆さんも聞いておると思いますが、点を線で結び面にしてくださいと。でないと、今ある機関庫に機関車を入れました。機関車が今脚光を浴びておりますが、あのままでは後につながらないので、ミュージアムなるものができましたね。そういっただけのことで、例えば角牟礼につながるとか、それから、森の街並みにつながる、伐株山に行って玖珠盆地を見おろしてみてくれないですかというような線でつながらなければ、機関庫のあの機関車もだんだん飽かされて、このぐらいだけですかと。では、もうこれは九重町のつり橋に行きましょうとか、そういった方向に流れてしまうんです。

だから、これをやはりせめて半日、1日おってくれば一番いいんですけども、そういった玖珠町の観光資源にしてもらいたいと。そこらはどう考えますか。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 点を線で結び面ということなんですが、玖珠町はこれまで観光的まちづくりの取り組みが大変おくれておりました。ここ数年の情報発信の取り組みにより、角牟礼城址跡、栖鳳楼、清水御門を含めた旧久留島氏庭園と森の城下町、それから、豊後森機関庫周辺、そして、伐株山、万年山への観光客の数がふえているのは事実でございます。

玖珠町に訪れていただいた観光客がひとり歩きできる観光地とするためには、各地区のガイドをしていただく方々のご協力は欠かせませんが、地域特性に応じて観光客の必要とする観光情報を場面、場面で提供しなければならないというふう考えております。

議員ご質問の点を線で結び面にしていくためには、今後において観光客の視点を重視しながら、多数の人が訪れる観光資源の案内や観光案内所の充実、観光バス、観光タクシーやレンタカーなどの交通手段の整備、そして、トイレの案内等、観光地ごとに検討することが必要であります。

さらに、最近、山口怜子先生とかかわりをいただきまして、いただいた言葉なんです、それぞれの素材は地域住民、関係者によって守り盛り上げていただいておりますが、今、玖珠町の観光的交流人口の増加を目指すには、それぞれの観光素材を守りながら生活し、楽しませている方々相互の交流をし、情報の交換、協働のまちづくりを進めることが重要であるというふうにお言葉をいただきました。先生がこれまでお会いになられた方々の中で、いまだに豊後森機関庫、森城下町、旧久留島氏庭園、伐株山、三日月の滝公園、立羽田の景など観光素材に玖珠町に住んでおられながら行ったことがない、さらに、玖珠町の歴史についても知らない方が多いと。その辺、各観光素材の場面、場面で活動されている方々が情報共有、連絡体制を築き上げることも点と線を面にすることに近づけますよというお言葉をいただいたところでございます。

以上です。

○議 長（秦 時雄君） 12番藤本勝美君。

○12番（藤本勝美君） いろいろと施策は練っておるんでしょうが、やはりこの各観光地を早くつないでやらなければ、さっき言ったように、けさも見たら、機関庫にはいまだに通行どめのバリケードがある。そして、観光客がいつも来ております。あれは何ですかね。横の駐車場をって入りなさいというような形になっておりますが、観光地であれば、もうあれを開放して、これもJRとの関係はあるでしょうが、JRに早く理解をいただいて、あれを開放して誰でもすんなり入れるように、あれはもう自動遮断機でしょう。だから、危険じゃない遮断機がついておるんですから、入れるようにしてもらわないと、せっかくあるものがやはり見た目が悪いです、見た目が。もうぽっと見ただけで、ああ、これは入れないんだとわかった人は横をっていかれるんです。そういうことでは観光地には私はならないと思います。

それから、先ほどから山口先生のお話もしましたし、お答えにも出ましたが、久留島記念館を何で今まで予算化したのが、山口先生がここはこうでなきゃ困りますよとか水戸岡先生との話し合いの中であったという先ほどの答弁でしたが、これは、先生方は予算が云々とかいうような話にはならない。あなたたちは、予算がつかないから前向きにそういった改造をするのに、予算に乗っておりませんから申請をし直さなければ前向きに行かれませんか、こういう話ですから、やはりそこらを両氏にご理解いただいて、いや、ここはこれで行かれませんかとか、そういった話をしながら接点を見出して早目にやらなければ、この予算というのは、もう1年に何回しか動きませんよ。組みかえをやるということになると、1年に一回ぐらい動くか動かんぐらいですよ。そういうことでは、これはとてもでないけれども、スピードを上げるということになるはずがないんです。やるからには、それだけのやっぱり予算を早く獲得しておかなきゃいかんですよ。それなら独自にでもやろうかと、単独でもやろうかと。大きなことはできませんわね。少々のごことは単独でもやろうかというようなくらいのス

ピード感を持たれるように、あなたたちが頑張らなければ、これは観光地が死んでしまうのではないかと思います。

もう我々も10年以上前から言おるんです。もう皆さん方は知っておる方もおると思います。村井議員もそれを言ったんです、一回。私もそれに追隨して後で言ったんです、何回も。それが点が線につながり面にならないというのがいまだになっておらんからね。あえて私はこの会に、幸いして山口先生と水戸岡先生といろいろ話す機会がありまして、スピードが上がらない、これでは私どもも困りますというふうなことを多々聞きましたので、申し上げるんです。

今、町長にもこれをご理解していただいて、これは大変でしょう。大変でしょうが、予算を獲得しなければこれはできんということはわかっておりますから、少しやっぱり国、県等々に説得を強めていただいて、早目にやってもらいたい、こう思っております。

2点目までいきましたから、3点目は水戸岡先生、山口先生のアドバイスを聞くのは聞いて、取り入れてはおるようですが、形になっていかんですね。形にならないのは、さっき言ったやっぱり予算がないから行かれないということだから、ここらをどう考えておるのか、ここをちょっとお聞きします。

○議長（秦 時雄君） 穴本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（穴本芳雄君） 形にならないということで、施設整備というところで私のほうから話をさせていただきます。

今、議員もおっしゃられたように予算があるとかいうこともございますけれども、建てるまでにいろんな制約もございましたし、それに向けて考えられておることを具現化するというところでやっております。そこらあたりでいきますと、私どももうまく議員がおっしゃられたようには、なかなか施設整備ができていないというのは確かかもしれませんけれども、そこは一生懸命やっておるということでご理解をいただきたいと考えております。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 昨年度よりまちづくり推進課、ただいま申し上げましたが、契約することができました日本を代表する工業デザイナーである水戸岡鋭治氏、それと当商工観光振興課としては、ソフト部分の運用として契約をさせていただいている、世界的に有名なパッチワークキルターであり、地熱料理研究家、それとまちづくりアドバイザーの山口怜子氏のアドバイス等、外部の人から見た目、プロの意見、まちづくりの起爆剤として捉えて、経済効果が上がるような観光施策を検討し、現在着々と進めています豊後森機関庫周辺整備を初め森の街並み利活用、森駅前商店街の施設整備等をこの地に住んでいる人が楽しめ、そして、今後の観光交流人口増加に向けた玖珠町のハード、ソフト部門の充実に取り組んでまいりたいと観光担当としては考えているところでございます。

先ほど議員おっしゃられましたスピード感についてでございますが、確かにまちづくりについてのすばらしい案をいただいております。そして、いただいても行政の仕組みとして予算措置がない場合が通常でございます、まず計画をして、必要な予算計画、財源について検討した上で議会上程、そ

して、議決をいただいての取り組みとなりますので、水戸岡先生、山口先生にとられましては、スピード感がないというふうに思われているということは重々痛感しております。

それと、山口先生におかれましては、昨日もちょっと協議をしたんですが、先ほどお話ししましたが、各観光素材を磨き上げ、楽しんでおられる方がそれぞれの連携を持つ場、これがまず一番先につくるべきではないかというふうな話をされまして、10月中に先生のほうは各観光素材、頑張っている方、住民を対象に勉強会みたいなものをして、それぞれの観光素材で頑張っている人たちの連携を持つことが一番今玖珠町にとって必要なことであろうというふうに言われましたので、担当課としても、この件について前向きに検討しておるところです。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 朝倉町長。

○町長（朝倉浩平君） 水戸岡さんとか山口さんの件につきまして、ちょっと関連で補足説明させていただきたいと思います。

ご承知のとおり、水戸岡先生とは平成25年12月18日から契約させていただいています。先生の契約金額から見れば、非常に安い金額にさせていただいています。その中において、大体おおむね1カ月に1回程度協議を行っています。東京に行くケースもありますし、大分に来られたとか熊本に来られたとか、そういうときに玖珠に来ていただいて、そういう中にハードの部分のご提案はいろいろいただいていますけれども、その中にアドバイス、ソフトの部分の非常にいいお言葉をいただいていますから、この場をかりてちょっとご紹介させていただきたいと思います。

ご指摘のように、行政の携わり、藤本議員おっしゃるとおり、物事は決めたらスピード感を持って進めることが重要ということで強い指摘を受けています。全ての物事にはタイミングがある。そのタイミングを逸することのないように、行動を起こし実現すると、そういう指摘をいただいています。

それと、トップの決断力が必要、トップがぶれなければいいものができ上がるということで、さまざまな制限や意見や横やりが起こると思うが、そのトップがしっかりした意見を持ち、決断を行い、それを伝えていけば理解が得られるとか、そしてまた、まちづくりにつきまして、子供たちが帰ってきたくなるような整理整頓ができたきれいなまちづくりを行う。きれいな町、店舗をつくるのが大事であると。日本の気配の文化というか伝統を活用することが一番のサービス、伝統は町のアイデンティティーであると。今の世代が頑張り次の世代に残すことが重要、ふるさとで受けた子供たちが自分のふるさとが寂れ、汚い町には帰ってこない。通りや家の前をきれいにすることは重要。また、花一輪でも装飾でもよいので、そこに人が存在し、にぎわいを見せることも重要だいただきました。

そして、駅舎や今後整備される施設を地域の方が活用し、そこでお茶を飲んだり、住んでいる人が楽しい空間をつくると。外から観光客を呼ぶための整備をするだけでは継続性がないと。地域の人々も利用し、楽しい雰囲気をつくれば、その地域に活性が生まれて、地域の人々の楽しい雰囲気があればこそお客も来るものであるとか、そして、玖珠には気候、自然、文化、食と玖珠町は全てが備わっていると。特に水や米はすばらしいと。新しいものにこだわらず、今ある古いものを大いに活用すべ

きだとか、童話の里のコンセプトを磨き上げなさいと。現在の久留島記念館等、大切なのは、つくるということではなくて中身が大事なんです。建物に入った伝え方、また、そこで暮らす人たちの理解が重要と。童話の里構想は、子供に限らず大人にも対処してやっていきなさいと。

そして、ここが一つ私感じたことは、外見は瞬間だけだと。みずからデザインを押しつけるだけでずね。瞬間的な話題になりますと。例えばななつ星の列車にしても、或る列車にしても、外見は瞬間的だ。その中でああいうデザインをした人でも、自分のつくったデザインに対しても瞬間的なことは思っていない。継続するのは、その中のいかなるソフトでサービスしていくかということで、手間暇をかけて、いかにソフトを充実するかと。外見というのは、我々も見たらすばらしいデザインと思っても、それは瞬間的なことだと。それはもう1年か2年で忘れられる。その次にどういうことをするか。そして、全員で足並みをそろえることは難しい。頑張る人たちから始まって、やる気のない人から任せる言葉をもらうだけでもいいと。足りない部分を役所が助ける。実際やる気のある人、やる気のない人、やる気のない人は任せるというその言葉だけいただければ、それでいいと。

観光客の集客については、観光客は胃袋を押さえないと成功しないと。また、それにはプロの感性を取り込むことも必要と。観光客のためでなく、地元の方も食事ができる空間が必要。集客、商売、ウィークデイが大事であると。土日当たにする商売は二流であると。平日は暇のある、金のある人が来ますから、その人たちをこなさいとか、まず何万人来たとか何人来たとかそういうのは全然関係ないです。お金を幾ら落としかというそれをしなければ持続しませんと。観光客が何人来て、もう通りだけされたらかえって困る。そこでお金をいかに落とすかということで、そういうシステムを考えなさいとか、住民が本気で町をどうしようかと思う必要があるが、個人が身銭を切った町はいい町となっている。一人一人が1%ずつ地域を変えるぞという意識を持てば、次の世代に残すまちづくりが始まるとか、すばらしい場所、空間をつくり、子供たちに伝えるのが大人の仕事であるとか、老若男女が使えることが重要。また、女性の力なくしてまちづくりはできないとか、非常にハード部分のデザインをいろいろとやっています。

でも、本当の水戸岡先生の、山口さんもそうですけれども、その中のソフトをどういうふうにするか、建物というのは瞬間的だと。その中をどうするかというのが我々行政のほうも含め、住民の皆さんとどういうふうを考えていくか、非常に今後のまちづくりにおいてやらなければいけない、たくさんいい言葉をいただきました。そこをどういうふう到我々は実現していくか、具現化していくかということが大事だと思いますから、ちょっと水戸岡先生とか山口さんのハード部分は、先生方は言っているんですが、大したものじゃない。ソフトをどうするかというのを皆さんで考えてください。非常にいいお言葉をいただきましたから、ちょっとここでご披露させていただきました。

○議長（秦 時雄君） 12番藤本勝美君。

○12番（藤本勝美君） 私は今、町長が言われたことはご本人から聞いておるんです。町長が今そういった先生方の意向を広くみんなにわかるように説明していただいたから、これはありがたいことであろうと思うが、おっしゃるとおりトップが、町長、あなたたちがこれをやらないと珍珠のためにな

らん、これを早くやろうということで打ち出して、議会にかけて予算を獲得してくるのがあなたたちの仕事なんです。我々はそれを是か非かに判断すればいい。だから、そういったことを十分に先生方と接点の中で理解しておるようですから、これはやっぱり早目にこれならいけると。玖珠町の町民のためになる、玖珠町のためになるということを早急に考えてもらいたい。もう次年度予算にも入っていきますから、こういったところをぜひスピード感を持ってやってもらいたい。

先日、県体のときに別府の市議、私の友達がおりまして、別府の市議が水戸岡さんと山口さん、そんな有名な方に玖珠町はアドバイスしてもらっている、うらやましいですね。別府にご加勢願えんかと言ってもしてくれませんよ。もうすばらしいやっぱりアドバイザーですよ。これはそれだけの人が考え出すことを玖珠町の財政では全部を受け入れるようなことは、それはできないかもしれません、財政的に。そこらを我が町に見合った観光地づくりで、人が来られるようなまちづくりを頑張ってもらいたい、こう思います。よろしく、玖珠町の将来のためです。水戸岡さんの言うとおりの子供のためですよ。我々は先がありません、余り。皆さん方はまだ先があって、その子供たちがすばらしい玖珠町だと自慢できるようなまちづくりに頑張ってもらいたいと思います。

次に、プレミアム券のほうに入っていきたいと思います。

プレミアム券の前回と今回の販売方法について伺うが、私はこのプレミアム券の増額予算がついたとき、3月の本会議で、ここにコピーもございしますが、プレミアム券が前は10%だった。その前回というか、今年の前回じゃないですよ。去年のプレミアム券の発売のときには10%で、まだ町民に余り浸透しておらんかったです。それで、もう皆さんも町民の方々が買って、残りがあればと。大体1週間ぐらいしてからだったですかね。ありますかと。1週間か5日ぐらいだったと思います。その当時はありましたから、買った経緯がございしますが、今回のプレミアム券、これはもう20%つくんだから必ずこれは殺到して買われますよと。だから、広く町民に行き渡るように、お金持ちが余計一遍に買ってもうかるようなあれではいけませんよと。もうこれは私なりに解釈すれば、そういうことを私は言ったんです。金持ちが得するようなプレミアム券であってはなりませんよと。町民の皆さんにわかるように、買える方は買ってくださいと。

それで、やっぱりくどくこれは説明せないかんですよ。プレミアム券が出ました、買いませんかじゃない。20%の特権がありますよ、得が。そのぐらひはやっぱりかいつまんで説明して、玖珠町民がみんなそれを耳にしたというぐらひにして販売すればよかったんですが、全然そういったことは恐らく浸透しておらんと思います。新聞をとっているところには、新聞の折り込みには、その前日か当日じゃなかったですかね。町外の方でもいいですよ、こんなチラシが入っていた。そしてまた、なおかつこの商品券が新聞にも出たとおり特殊な団体に、組合に予約販売をした、こんな販売のやり方は言語道断ですよ。20%の得をする券をこんな売り方をするとか、私は十分これはもうはっきりしておりますが、商工会にお願いすると。玖珠町商工会にお願いするということで村木課長が説明しました。その商工会とやはり細部に渡って打ち合わせをして、みんなに行き渡るようにしなさいと、それを言っておるんです。

ただ、今回は2時間あるかないかで売ってしまった、完売してしまった。しかも、大量に買って、ある人はお聞きするところによると、确实ではございませんよ。調べろと言えば調べますよ。自動車1台、300万もする車をプレミアム券を買って、買った。それがどうも町外の人と。それから、商店の店主であろうと思います。増改築、家の改築に充てる資金に買った、数百万。そんなことがあっていいんですか。みんなそう思わんですか。町民にやはり行き渡る、買える人ですよ。無理というわけにはいきませんが、行き渡るように広く宣伝して買えるようにしてくださいよとお願いしておったんです。今回は前期売った分までちょっと一応説明を受けます。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 今回のプレミアム商品券発行事業につきましては、議員おっしゃられますように、3月の本会議、私も覚えております。一応この事業につきましては、国の進める地方創生交付金を利用して、地域に貢献する地元商店街等において共通して使用できるプレミアム券を発行することにより、最大の目的は地元の消費の拡大、地域経済の活性化に資することを目的としたものであります。

同事業につきましては、玖珠町商工会が商品券の発売及び利用後の換金業務など全ての業務を担い、事務に必要なプレミアムについての財源を国、県、町で補助するという仕組みのものです。今回のプレミアムは、1万2,000円分の商品券を1万円、20%のプレミアで販売したものでございます。

ご質問の販売方法についてであります。第1期販売として1億6,500万円を販売いたしました。議員がおっしゃられますように、20%のプレミアム率であったため短時間で予定冊数を完売し、多くの住民の方々にご迷惑をおかけしたところであります。

第1回目の販売においては、この20%のプレミアム率の効果と住民である消費者の気持ちを読み違えたことによるものであり、販売する日の曜日設定、販売限度額設定、町内在住者に限るなどの対象者の設定など多くの問題、課題を残したものとなり、担当課として大変残念に思っているところでございます。

その後、事業主体である玖珠町商工会としては、第2次販売を9月6日に第1期販売における住民の皆さんからのご意見、問題点、反省点を教訓にして実施していただいたところでございます。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 12番藤本勝美君。

○12番（藤本勝美君） それが課長、残念なことであったと。本当に残念なことです。町民はがっかりしている。そして、ここに議会に、どこから来たかわかりません。玖珠町議会議員各位、町民の代弁者として活動に敬意をあらわします、ここまではいいんですね、ありがたいことです。ですが、この後、プレミアム券について、商品券を私の言ったとおりのことを言っておるんです。何だ、これは。こんなことではいけませんよ。しかも、これは個人的な話になるからここは避けましょう。これはわかると思います。みんな考えている。いろいろ傍聴者の方も聞いたらわかると思う。これは言いませんが、地方自治法、ここは避けないかな。議員が操作する行為が許されるかと思う。これは、さっ

き言ったところに当てはまると思いますが、全ての町民不在のなれ合い、お友達関係から生まれたとしか考えられない、こういったやり方は。それでなくても玖珠町議会議員は組合出身者、これもやめたほうがいいかな。これはもう皆さんもわかってのとおりです。

議員が特権を持って買っていないかと、これをうたっているんです、この中で。こんな怪文書が我々議会に来ております。もう皆さんももらっている。こういう疑いをかけられている。こんな我々は本当に買えなかったですよ。買おうと思って次の日に行ったら、一、二時間で売れてしまいました。今回は大変なにぎわいで、1カ所で販売、メルサンホールで。これは町内の端々の人は大変だったと思うんですよ。年寄りにはタクシーかバスしかありませんから。タクシーか自家用車で送ってもらって買いに来た人もおると思いますが。お年寄りも10万か5万か、20%もあれば買いたいですよ。孫に何か買ってやろうか、そういった考えがあった人も多かったと思う。こういう人が大変な交通費を使って来た人もあろう。それから、朝早くから並んで、最後に終わったのが12時過ぎておったでしょう。そんな大変な労力を町民に与える、こんなことはいけませんよ。

しかも、そういったお年寄りとか町民の方が大変な苦勞をして買い求めなきゃならんものをこの労働団体に予約販売、これが前回ですよ。今度はやっておらんけれども。こういった販売をするのは言語道断ですよ。これは来年もあろうかと思うが、そこらは今後の反省点でどう考えておるんですか。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 9月6日に第2次販売を実施、商工会のほうでいたしました。議員おっしゃられますように、今お持ちの文書等もあるんですが、当商工観光課のほうに連日同じようなお電話、お叱りの電話がございました。商工会のほうにも、うち以上に連日来ているというふうには聞いておりますが、その場に私も行きましたが、すごいものでした。

その7月1日を踏まえまして、9月6日の販売においては、一応議員おっしゃられますように、販売対象者を町内在住者に限定し、第1回目購入者を対象外とするために販売窓口での本人確認の事務が必要となります。これには一応名簿を使う必要がございますので、数カ所に分けることはちょっと無理だということの報告でした。そのとき事務手続に大幅な時間を要したと受けておりますが、午前9時から整理券を配布し始め、10時より販売開始、同日午後4時半に7,190冊、プレミアム額総額で8,628万円が完売したと聞いているところでございます。

それから、先ほどの予約販売という点でございましたが、決して予約という話ではないんですが、本町におけるこの事業、お買い物券事業については、平成3年度より玖珠町での消費促進と小規模事業者への支援を目的に玖珠町商工会が二十数年以上取り組んでいる事業であります。通常の場合は、お買い物券1枚が500円を470円で利用できるということで、プレミア率は6.3%ですが、その分が今まではちょっとどうしても売れ残りがあるということで、商工会としても今回、一気に町内で2億8,000万以上のお金が動くというのを心配され、従来どおりの販売をしたというふうな報告を受けているところでございます。

議員おっしゃいますように、今後どうするかということなんですが、一応今回の場合は、以前国が

実施いたしました地域振興券とか町内、町民一律に配るものというものはちょっと意味が違っておりました、消費拡大につながるための消費喚起、この際買ったほうがいいぞというものを狙いで国がやったことですが、どうしても額に限りがございます。もし議員おっしゃるような話、これからもし20%という話になれば、ちょっと対策を講じて、一番今担当課として考えているのは、ある一定期間の買いたい人の予約を受けて、その人たちを集めての公開抽選会なりをしないと本当の皆様のご意見、ご要望をクリアできるようなことはないんじゃないかというふうになら、商工会のほうと協議を進めているところでございます。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 12番藤本勝美君。

○12番（藤本勝美君） これは今、課長が答弁の中で言いました。大変な苦情が上がってきたと。当たり前ですよ。上がってくる。これは行政のほうも投げやりをしたからこうなったんですが、受けたほうもそこらは誰が考えてもわかることなんです。受けたほうも受けたほう、受けてもらわなきゃ困りますよ。受けたところはやはりそれだけのことを十分把握して、町民に行き渡ることをまず考える。ばらまき予算でありがたくもあつたが、浸透しておらん。一部の人だけよかった。嫌なことですよ。そんなのはもうネズミ小僧と一緒に。各家庭にまきますか。それはできんとさっき言ったですよ。だから、これをやはり今後、本当にやっぱり町民は怒りますよ。ここらを徹底して商工会ともう少しやっぱり嚴重に会議をもってやってください。商工会、わかりましたか。そこらで私の一般質問を終わります。頑張ってください。

○議長（秦 時雄君） 12番藤本勝美議員の質問を終わります。

次の質問者は、2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） おはようございます。議席番号2番大野元秀です。

当選後2回目の定例会で初めての一般質問であります。非常に緊張していますが、一般質問の機会をいただきましたので、通告に従い、議長の許可をいただきまして、一問一答方式で質問させていただきます。

質問順1番の方と重なる質問もあろうかと思えます。最初に、グランドデザイン事業の中の伐株山休憩舎整備についてですが、豊後森の機関庫、森駅通り、森街並みは事業の進展がうかがえますが、水戸岡氏の契約が本年11月までということで、伐株山休憩舎整備事業の進捗状況について具体的にお伺いいたします。

○議長（秦 時雄君） 穴本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（穴本芳雄君） 議員のご質問でございます伐株山展望休憩舎の進捗状況についてお答えをいたします。

この展望休憩舎につきましては、ご承知のとおりグランドデザイン契約を結んでいる水戸岡氏の提案によるもので、その具現化に努めているものでございます。水戸岡氏からいただいた最初のデザインは昨年3月でございまして、その後変更したものが今年4月にいただいております。

また、本事業を実施するに当たり、有利な補助事業を研究しまして、県とも相談をしまして、地元産木材の使用による林野庁の補助をいただくよう段取りをしてきたところでございます。林野庁からは、改修予定の既存のあずまやの耐久度を問われ調査しましたところ、これはよろしくないということが判明をしました。また、新築の展望舎の場所は馬跳ばせと呼ばれているところでございまして、その文化財を傷つけないよう基礎部分の工法変更も検討していましたので、現在まだ発注できていないところでございます。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） 水戸岡氏との契約が11月までということで、水戸岡氏のほうから具体的に報告書や設計書などの事業契約を交わすような予定がありますか。設計図書、設計書ですね。そういった形の中で契約、いわゆる報告ですよ。

○議長（秦 時雄君） 穴本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（穴本芳雄君） 水戸岡氏との契約はデザインということでございまして、具体的な設計等につきましては、水戸岡氏ではなくてほかの方にやっていただくということでございますので、そのようなものは最初にデザインとして出されたもの、これがいわば成果品となるというふうを考えております。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） はい、わかりました。

もう一点なんですけれども、馬跳ばせと呼ばれる文化財の跡で、基礎部分の工法の変更を検討しているということで発注が今できないということですが、水戸岡氏の契約、先ほど言った11月までなんですけれども、ハード面、ソフト面ともに契約期間内には完了しないということではよろしいでしょうか。

○議長（秦 時雄君） 穴本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（穴本芳雄君） 議員おっしゃるとおり、まだ発注ができておりませんから、水戸岡氏との契約、11月末になっておりますが、そこまでには完成は今できないという状況でございます。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） なぜこのようなことになるのでしょうか。久留島記念館の改修工事にしても、休憩舎の事業も早目に事前の調査を十分に行ってから計画を進めていかないと、水戸岡氏のデザインどおりにいかなかったり大幅な予算修正が必要になってくるのではないかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（秦 時雄君） 穴本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（穴本芳雄君） 議員おっしゃられるとおり、先ほどの例えば文化財につきましても、私ども結果として丁寧な事前調査、そういったものが不足していたというふうになっていく部

分もあろうかというふうに思っております。そういった部分でやっぱりおくれが出てきたというふうに考えておりますし、ここは私どもも反省をしているところでございます。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） スピード感を出すために、計画性を持って事業に取り組んでいただきたいと町民皆さん考えているところでありますが、先ほどの水戸岡氏のアドバイスを踏まえ、町として具体的なコメント等がありましたら、よろしくをお願いします。

結局事前の調査が足りないということで、やっぱりスピード感がありませんよね。スピード感を出すために、計画性を持って事業に取り組んでいただきたいと町民を挙げて、私も踏まえてですが、考えておるんですけども、先ほど水戸岡氏のアドバイス、町長のほうが言うておりましたが、町としての具体的にどういったふうにやっていくとかいうコメントがあればお願いしたいんですが。

○議長（秦 時雄君） 穴本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（穴本芳雄君） いろんなデザイン等、水戸岡氏が出していただいておりますのでございまして、その具現化というところで今おっしゃられた施設の整備について、例えば今回の耐久度あるいは文化財の調査、こういった部分の不足という部分については、先ほど申し上げましたとおり調査不足というふうにとられても、これはもういたし方ないとも考えておりますから、これからはそのようなことがないように十分事前にいろんなことを調査し、踏まえた上で施設整備をやっていきたい、そういうふうに考えております。

○議長（秦 時雄君） 朝倉町長。

○町長（朝倉浩平君） お答えさせていただきます。

おっしゃるとおり、やっぱりスピード感を持ってやらなきゃいけないということなんですけれども、ちょっと久留島記念館もそうなんですけれども、来年の5月ぐらいを予定していたんですけれども、結局再来年になるということで、結局防衛から新たな補助金がとれるという制度がわかりましたから、それをその前に調べておけると言われればそれまでなんですけれども、建設の途中で久留島記念館、補助金がとれるんだったら、初め6,000万と言ったんだけれども、増築部分はだめだということで、3,000万は補助金をとれそうだとということで、もしとれるんだったらということで、それは1年延ばしてもそうだと。

今度は伐株山休憩舎につきましても、先ほどちょっと答弁の中にありましたけれども、県産の木材を使えば大体5割程度補助金が出るということで、では、それは県産木材を使うということをおこなう中で、新築じゃないとだめだ、改築じゃだめだとかいろいろありまして、実際伐株山も休憩舎は延びているという状況なんですけれども、基本的に水戸岡氏も指示をいただきまして、行政はスピードが遅いということの中で、今、大野議員からもご指摘ありましたように、やはり事前に十分どういふ補助金がどこにあるのかとか調査して、そして、文化財がどのぐらいかかるのかとか調査してやっぱりやらなきゃいけないというのはご指摘のとおりでございますから、今後ある事業につきましても、議場に提案する場合につきましても、あらゆる面から精査してその工事に入るようにしていかなきゃいけ

ないということでのご指摘と思ひまして、今後は十分注意していきたいというふうと考えております。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） ぜひ期限を区切って、町民にわかりやすい事業展開を行っていききたいとこのことを切にお願い申し上げ、次の質問に移りたいと思います。

次の質問ですが、休憩舎を含め伐株山の今後の観光振興ということで、平成28年から国民の祝日として山の日が施行されます。休憩舎を含め伐株山には、ほかの玖珠町を違う角度から望める場所があったり、フラワーツーリズムという言葉が適切かどうかわかりませんが、玖珠地区のコミュニティの方でアジサイ、レンゲツツジの植栽やコスモスの播種を行っています。今年は台風16号のため、コスモスが倒れ、本数が寂しくなっていますが、そこで、今後の観光振興についてどのような施策を考えているのかお伺いいたします。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 議員ご質問の伐株山についてですが、現在、伐株山の山頂付近の草刈り、議員がおっしゃられましたコスモス、レンゲツツジなどの植樹、遊具の管理、公衆トイレの清掃管理などについては、現在玖珠地区コミュニティの皆さんが献身的に実施していただいております。過去に比べまして、子供たちの遊べる範囲が格段にふえ、訪れた家族連れや観光客に好評を得ているところでございます。観光を担当しているものとして、玖珠地区コミュニティの皆様への心こもったおもてなしを続けていただいていることに感謝しているところでございます。

伐株山の観光振興につきましては、現在まちづくり推進課とハード整備のほうは計画しておりますが、行政のみの取り組みでは長続きいたしませんので、現状に引き続き、玖珠地区コミュニティの方々との協働の取り組みを模索していきたいと考えているところでございます。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） 協働の取り組みということで、具体的にはどういった取り組みをするかということ、まだコミュニティと今後話し合っていくということによろしいでしょうか。

今月、9月6日に伐株山のほうに私、登ってまいりました。さっき言ったようにコスモスのほうも大変台風でやられて数が減っております。あれが一面に咲くと非常にきれいだろうなと思っておりましたが、非常に残念に思います。そのとき玖珠コミュニティの方が親戚の方と来られて、休憩舎のこと、この辺に休憩舎ができるんだ、展望台ができるんだよということを話しておられました。

そこで、DESTINATIONキャンペーンも残すところ半月となりましたが、伐株山を訪れる観光客の方々に水戸岡氏デザインの休憩舎ができることをどのようにアピールしたか教えていただきたいんですけども。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 本来ならDC期間中に完成で、ソフト部門の観光課としてはPRをしていきかけたんですが、ちょっと諸般の事情でまだ完成がおくれておりますが、現在JR九州

久大本線には先ほどから話題になっております水戸岡鋭治先生のデザインによるゆふいんの森号、それから、豪華ななつ星 i n 九州列車、それから、スイーツ列車が走っておりますが、現在、伐株山のほうからは、九重町物見塚から広瀬付近まで約10キロぐらいにわたって眺めることができます。こういうことは久大沿線、日本中探してもここしかないところで、まず、ここに水戸岡さん3台の今世界的話題の列車を伐株から見られて、その見る場所がまた水戸岡鋭治さんのデザインされた場所であるという形は、日本中探してもどこにもないというふうに思っております、町としては、この水戸岡鋭治さんが手がけていただける、まずできないこのストーリー性を玖珠町の新たな観光素材としてPRという形に持っていく考えでございました。

それともう一つ、先ほど水戸岡鋭治さんの今、ななつ星 i n 九州とスイーツ列車ですが、これが久大本線で豊後森駅だけに一緒にとまって見られます。離合のためなんです、これが毎週金曜日と日曜日の15時22分ですが、これを見るために、これも当課の職員がフェイスブック等でこういう情報を流したところ、すごい好評で、現在日曜日の3時ぐらいになりますと、森駅周辺、駐車場がなくなるぐらいの反響ぶりでございます。中にちょっととめられなくて、道路にとめたりとか危ないところもありますので、ちょっとこれはJRの駐車場管理の総務課等も協議をして、一応この2つがそろうのは10月11日の機関庫まつりの日まででございます。それ以降は、或る列車のほうは大村線、長崎のほうに行きますが、ちょっと来年も絶対うちの久大線を走ってほしいというのをJRに要望しておりますので、そこら辺も含めて伐株山の展望台から眺める久大線の列車というふうな形でPRの準備はできておるんですが、これからまたやっていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（秦 時雄君） 朝倉町長。

○町長（朝倉浩平君） 村木観光課長は最後PRと言いましたけれども、いかにPRするかというのが大事だと思います。機関庫ができて、休憩舎もできれば、どういうふうに玖珠町、伐株山をPRしていくか。たまたま昨日、東京から私にお客さんが来まして、伐株山に連れていきましたら、まず彼がしたことは、何か背伸びをして癒されるということを一言言ったんですね。そしてまた、これは個人的で恐縮なんです、今年の夏休み、ちょっと孫が来ましてから連れていったら、このブランコですね。下から写真を撮ると、ブランコの後ろがもう空なんです、景観が。空をバックにしたブランコは多分余り日本ではないと思うんですね。

だから、そういう意味を含めまして、休憩舎ができましたら、そして、機関庫ができましたら、旧森のほうもできましたら、どういうふうに全体、先ほどの点と線の問題じゃございませんけれども、どういうふうにPRしていくかということをやっつけていかなきゃいけないということで、先ほどこのぼりのくぐり抜けを台湾でやるというのも玖珠町のPRとしての一環になりますから、全体的にどのようにしてPRしていくかというのが今後の課題じゃないかというふうに思っております。場所としては、すばらしいところだと思っております。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） 今後のPRについては非常にわかったんですけども、私の言ったのはDC

のキャンペーン中、伐株山を訪れる方、いわゆる訪れる方に水戸岡氏デザインの休憩舎ができるんだよというような例えば表示物とか、もう日にちがないんですけれども、15日、あともう半月しかないんですけれども、全体的なPRの方法についてはもう理解できるんですけれども、せっかくの伐株山にこのDCの期間中訪れる方もいらっしゃったと思うんですよ。そのいらっしゃった方にどのようなPRをしたのでしょうかという質問だったんですけれども。

○議長（秦 時雄君） 穴本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（穴本芳雄君） 議員おっしゃられる質問でございますけれども、現実には先ほど申し上げました施設整備の協議中でもございましたので、具体的なPRができていないというのが現実でございます。ただ、大分市で今月27日まで大分市美術館で開催中の特別展でございます水戸岡鋭治氏デザインワンダーランドで伐株山展望休憩舎のデザイン図が展示されているということは、そこはPRされているというふうに考えておりますけれども、先ほど申し上げましたように、直接私どものほうからのPRはまだできておらないという状況でございます。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） PRの件ですが、本来7、8、9月、今年DCが現在やられておりますが、このPRにつきましては、昨年度、1年前から日本中の旅行会社等を含めまして情報提供して、ここにはこういう水戸岡さんのができる予定というのはPRしてございます。ですが、まだ具体的に立て看板等、来られた方のほうについては、ただいま穴本まちづくり推進課長が答えたとおりでございますが、できておりませんが、町といたしましては、現在DC期間中、7、8、9月ですが、町として、観光担当としては、ここで終わったら何も意味がございませんので、10月以降どうやって人を続けて来らせるかという形を取り組んでまいりたいと今現在、担当課として作戦を練っているところでございます。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） せっかくの水戸岡氏のデザインの休憩舎なので、伐株山へ登ってくる方にも立て看板等できるのであればPRして、今後の観光振興につなげていただきたいと思います。

次なんですけれども、施設完了後、観光人口の増ということですが、年間の目標、どのくらいの方が伐株山を訪れるとか、また、どのくらいの割合で観光客をふやしていきたいとかというような計画があれば教えていただきたいです。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 具体的な数値目標等は、具体的には正直今のところございませんが、現在でも多くの方がまず玖珠に見えた方は伐株に登っていただくという形のPRをしておりますが、具体的な数値目標等については現在のところ考えておりません。本来ならあるべきところなんです、今、国が進めていますデータ化、交流人口がどのくらいあるのかという方向の議論がデータ的に進んでおりますので、今後そういうデータ等を参考に考えていきたいというふうに考えています。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2 番（大野元秀君） 目標設定が今のところないということなんですけれども、やっぱり目標数値というのは必要だと思うんですね。目標を達成するためにアイデアを出しながら努力して、観光人口増としていくんだと思うんですよ。できれば目標設定をして、さっき言われたように今模索中というところなので、早目に目標設定して、また年間の目標だけではなく2年後、3年後どのようにふやしていくかというところまで計画を持ってやっていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議 長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 担当課長として議員ご指摘のとおり、どういうふうに目的、目標を持ってやるべきであるということは十分痛感しておりますので、今後の観光行政、まちづくりに生かしていきたいと思います。

それと、先ほど私、お客様を来らせるみたいな言い方をしたようなので、申しわけございません。お客様に来ていただくという形になります。失礼しました。

○議 長（秦 時雄君） 朝倉町長。

○町 長（朝倉浩平君） 交流人口の目標、非常に大事だと思います。それについてやっていきたいと思いますが、基本的に先ほど水戸岡さんのも言いましたが、私の考え方なんですけれども、設備をつくって、来てトイレだけされてもらっては困るわけです。いかにお金を落とさせていただくかと、そういうシステムを考える。それは目標以上にそれが大事だと思って、その部分をどうするかというのは、私は重要ではないかと。

機関庫のときに申しあげましたけれども、当方に来られてトイレだけされて帰られては、もうごみだけ残してもらっては困るわけです。いかにそこでお金を落とさせていただくか、人口目標も大事だと思いますけれども、そういうものも両面でやっていきたい、そういうふうと考えております。

○議 長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2 番（大野元秀君） 私もお金を落とすシステムということは非常に大切だと思います。当然収益が上がってこないと維持管理の問題等も出てこようかなと思いますので、非常に大切なことだと思います。

伐株山は自然豊かな珍珠盆地を眺められる格好の場所であること、また、さらに休憩舎と水戸岡氏のストーリー性を新たな観光素材のPRとしていくことも非常に大切なことだと思います。休憩舎は有名な水戸岡氏がデザインしたということを活用して、利用してと言ったら悪いんですけども、水戸岡氏がデザインしたということを活用して、例えばこれは私の今後の案、皆さんいろいろな案を持っているかと思うんですけども、例えば伐株山山頂で結婚式を挙げるとか、また、山頂から青森の田舎館村の田んぼアート等ご存じだと思うんですけども、田んぼアートを眺めるとか、山の中腹には一ノ瀬川が流れ、観光振興の宝、たくさん眠っていると思います。これから本当の観光振興ではないかと思います。先ほどの町長がおっしゃられたように、お金を落とすシステム等いろいろな発想の中で考えていってもらいたいんですけども、いかがでしょうか。

○議 長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 大野議員におかれましては、珍珠地区伐株山の観光素材の磨き上

げにつきましてご提言いただきましたが、スポーツシーズンとか四季折々の伐株から眺める景色、今の時期はまだ緑から黄色に変わる時期なんです、田植え時期の水を一面に張ったときの様子、それから、途中の緑で、秋の黄金色のすごい景色、観光客の方に私どもは推奨しているところですが、今回あそこの場所で田んぼアート、四季折々、それと結婚式、とても利活用についての明るく楽しいご提言だと思っております。感謝申し上げます。担当課長として今後前向きに検討してまいります。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） ぜひとも今後の取り組みとして休憩舎整備事業や目的の達成だけにとどまらず、さまざまなアイデアを出しながら玖珠町の交流人口を増加させるような取り組みをお願いしたいと思います。以上で伐株山休憩舎整備事業についての質問を終わります。

次の質問ですが、企業誘致における町の取り組み計画ということでお伺いします。

企業誘致については、工業団地の活用のために玖珠町まち・ひと・しごと創生総合戦略の柱として町政運営の基本方針と考えておられますが、町の取り組み計画についてお伺いします。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 当課のほうで観光とこちらの企業誘致も担当しておりますので、お答えさせていただきます。

企業誘致における玖珠町の取り組み計画につきましては、企業誘致での雇用の場の確保、これが町の人口減少対策として最も効果的、即効性がある方策のため重要課題に位置づけております。とりわけその最大の受け皿となる玖珠工業団地は、平成5年に大分県土地開発公社と基本協定を締結して以降、長い年月をかけて各種調査や協議、地権者同意を得て、平成25年度に全ての用地取得が完了しました。平成24年度、25年度に進入路となる町道井の尻四日市線の一部改良と防災調整池が整備され、埋蔵文化財の発掘調査も平成26年度末で約6割が終了し、本年3月の開発許可、農地転用許可を受けまして、いつでも造成可能な状況となっております。

しかしながら、一方で企業へのアプローチとなる用地造成の問題が常に議論の焦点となります。たびたび議会でも取り上げられていますが、巨額の費用、約50億以上になるのではないかということから、立地企業が決まらない段階での先行投資が難しい状況となっているところでございます。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） 取り組み状況についてはわかりました。先般、この工業団地のほうにも行ってみました。進入路である町道井の尻四日市線は一部道路改良が行われているところですが、残りの部分の道路整備についてどのようにお考えでしょうか。

ちょっと上に上がってみると、今は土捨て場みたいな感じで土の仮置きが行われている状態ですかね。ちょっと先まではずっとがたがた道でも行けたらいいのかなと思ったんですけども、なかなか先のほうまでは行けないと。もう上り詰めたところまでしか行くことができないような状況だったんですけども、町道に認定されているということなので、残りの部分の道路整備についてどのように

お考えですか。お願いします。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 工業団地進入路の部分ですが、従来この工業団地につきましては、進入路がなくて、下のほうからあの上に工業団地予定地がございますが、企業の方が見えられたときにやっけて、それではちが明かないと。そういうことではまず進まないということで、現在頂上まで上る道の整備ができております。これも一応国の社会資本整備交付金、国の予算等も充当して何とか頂上までできました。

町としては、早くそれから抜ける道、袋小路の道ということよりも抜ける道等を県のほう、実際にこの工事自体は県が実施しておりますので、土地の所有者も県でございます。そこで、県のほうには早く進めるように要望を出しておりますが、現在県のほうとしては、まず企業を呼ぶための事前工事という位置づけでありましたので頂上までですが、町としてはこれ以上まだ進めたいということで、本年度予算の中で用地測量、そこから先の用地測量なりをした上で強く県のほうに要望していこうというふうに考えているところでございます。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） 工業団地を見に来られる方に対して、やっぱり奥まで行って見たほうが十分わかりやすいと思うので、用地測量を行って、早目に道路改良を行っていただきたいと思います。

次なんですけれども、なかなか工業団地には誘致企業がないということなんですけれども、高速の四日市インターを新設するなど積極的に工業団地を誘致できるような取り組みも必要かな、これはなかなか難しいことなんでしょうけれども、交通の便宜上、長匆線を通るよりか、あそこにインターがあればすぐに工業団地に行けるとか、工業団地に誘致できるような具体的な取り組みが必要ではないかなと思うんですけれども、その点はいかがでしょうか。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 議員ご指摘のとおり、工業団地の池の原、四日市側のほうは高速道路、大分自動車道に面しております。過去に担当職員同士の県とのやりとりの中で、あそこにスマートインターみたいなもの、工業団地専用のものをつくったらどうかとかいうような具体的な案については県のほうには提示して、何とかならないかという町として議員が今おっしゃられたような要望等も進めているところですが、なかなか玖珠インターに近いという形もあって難しいんですが、私も玖珠町にはすぐ近くに玖珠自衛隊駐屯地もございます。その辺の兼ね合いも含めて何とかならないかみたいなことは進めているところですが、今後もまた強くやっていきたいと思っております。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） ぜひとも県のほうに押しつけて頑張ってくださいと思います。

それと、日本立地センターとの委託契約が結ばれたということでありましたが、現状でどのくらいの企業情報の収集、また、何社か企業訪問ができたのか、あれば誘致の可能性を含めてお願いいたします。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） これまで企業誘致につきましては、土地は県でございまして、県が企業誘致班ということで積極的に企業誘致に取り組んでいただいております。東京事務所や大阪事務所を中心に各企業の情報等をいただいているところですので、何件か有望なところの話があったりとかはありますが、現在まだ確定的なものはございません。

そして、今お尋ねの一般社団法人日本立地センターですが、これは今回玖珠町としては初めての取り組みでございます。これまでこういう日本中の情報をお持ちのところとの契約はございませんでしたが、今回地方創生の中の国の予算を使ったところで、地方に企業を呼びたいという理由づけのもとにこの立地センターと契約を結んで、まず企業誘致のプロでございますので、情報のほうを集約していただきたいということで、まず、うちのほうの内陸型工業団地に似合うような企業にアンケート調査等を実施して、少しでも引っかかるようなところ、引っかかると言ったら失礼ですが、興味を持っていただけるようなところのデータの調整と、現在担当の方がもう玖珠町にみえていただいて、玖珠に似合いそうな近隣の日田市、大分市にある企業のその本社の絡みとか、プロでないといけないような情報のものを持って、今担当者と立地センターと協議しておりますが、まだ具体的にどうということではございませんが、日本全体のデータをもとに企業立地、誘致につながるような活動を進めていただいております。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） わかりました。用地の造成の問題、また用地売却、分譲の主体は県及び県の土地開発公社であることや企業の考え方もあり、思うように行かないと思いますが、企業誘致が町の人口減少対策で最も有効的であることを考えると、ぜひともこれまで以上に企業誘致活動に取り組んでいただくことをお願いして、次に移ります。

次は、町内企業に対する支援策ということで、9月より民間企業からの募集が始まり、先日、私は美山高校の進路のほうに話を聞きに行ったところなんですけれども、約50名の生徒が就職を希望し、うち20名が町内就職を希望ということでした。企業誘致が難しいのであれば、町内企業を支援して今後の雇用の拡充を図り、定着していただけるためにも、玖珠町企業立地促進助成金を含めてもろもろの助成金がありますが、支援策についてお伺いしたいんですが、よろしくをお願いします。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 町内企業に対する支援策ということでございます。企業立地の誘導策として、玖珠町に進出する企業に対して優遇措置を行っておりますが、平成24年度に玖珠町企業立地促進助成交付金の要綱を一部改正しまして、町内企業の増設等に対しても同様の優遇措置を整備したところであります。

対象企業は、公益性が高く雇用増加が見込める製造業を中心に新規雇用者5名以上、投資額5,000万円以上、用地取得面積は新設1,000平米以上、増設500平米以上の工場を設置した場合には、固定資

産税の減免または固定資産税相当額を助成、約5年間でございますが、新規雇用者1人当たり10万円、上限は500万円でございますが、投資額の10%、上限3,000万円の助成を支給しています。また、ふるさと融資事業として、事業費の45%を無利子で貸し付ける制度を用意しているところでございます。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） 今のが玖珠町企業立地助成金ということで、それもちよっと勉強させていただきました。

担当課のほうで、町内企業で定期的な訪問、大企業であろうと思うんですが、20社ぐらい訪問されているということで、中小企業、それ以下の企業ですね。本当に10人とか5人とかいうような会社の訪問、また、今みたいな支援策ですね。それを伝える手段、なかなか恐らく町報とかインターネットとかで流しているとは思うんですけれども、やっぱり直接話に行って、こういう支援策があるんだよということを書いてあげないと経営者の方もなかなか把握できないんじゃないかなと思うんですけれども、その辺はいかがでしょう。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 議員ご指摘のとおりで、先ほど申し上げました支援策につきましては、現在企業誘致活動やホームページを通じて周知、紹介しておりますが、町内企業者に対しましては、定期的な訪問を行うなど投資動向の把握等を行いながら、いろいろな面から企業をサポートし、雇用の増加が図られるように努めているところでございます。

特に本年度は先ほども申し上げましたが、地方創生の先行型事業、知恵を絞れば国の予算がつくという事業のもと、ものづくり人材確保支援助成金事業に取り組んでいます。これは町内のものづくり企業の多くが課題とする人材の確保と社員の定着化に着目したもので、求人活動や人材育成への取り組みを支援する町独自の制度となっており、現時点で5社の企業申請があるところでございます。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） 企業立地促進助成金が該当するような企業ですね。企業活動については非常に努力されているんじゃないかなと思いますが、ものづくり人材確保支援助成金も含めてなんですけれども、対象業種が製造業に限られているということで、他の業種、例えば農林業など対象企業の拡充も考えたらどうかなと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） その対象業種の問題につきましては、私もこの担当になったとき、すぐ一番引っかけたところではございますが、やはり企業誘致というものを考える場合に、よそから企業を呼んできて大きな雇用を生むという場合にネックだったようではありますが、現在ある企業と同じものを呼んだら、既存企業のほうがちょっと厳しくなるんじゃないかということで、現在玖珠町内にない業種という形で、製造業、自動車関連とかいう形になっていたようですが、今、議員がおっしゃられますように、現在の競争社会の中において、一つの業種に定めることなく町内企業の育成に

つきましては、その資金面の状態とか販路開拓の面の支援とか、この辺につきましては、当課が窓口ではございますが、元来商工会のほうと一緒に実施していく役割のものと考えておりますので、今後検討してまいります。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） 附随してなんですけれども、先般、商工会のほうにちょっと行きまして、業種別内訳を教えてくださいました。商工会に加入されている会社の総合計が513社ありまして、製造業の割合は48社だったんですね。また、従業員が20名以下の企業がうち430社ありました。20名以下の業者は430社、2名以下の企業が359社と圧倒的に多いんですが、雇用を促すためにも先ほど言った製造業だけじゃなく、また、小規模の事業への支援策も必要だと思います。

例えば執行部が訪問するような大きい企業については、一遍に5人以上雇用してくれるかもしれませんが、業種の違う小規模の事業所10社が1名雇用してくれれば、10人の雇用が生まれるんじゃないかなと思うんですけれども、そういった対策も今後必要になってくると思いますが、いかがでしょうか。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 企業誘致、雇用の場の確保の担当の課といたしまして、実際雇用の場の確保を唱える一方で、管内では有効求人倍率が低く、町内企業の求人募集に人材が集まりにくいといった雇用のミスマッチも見られます。また、少子高齢化とか人口減少に伴いまして、空き店舗や事務所が目立つことから、小規模、10人未満以下のところ、事業所への支援策、議員おっしゃられるように今後の喫緊の検討課題というふうには考えております。そのため、今回経営指導や創業支援のノウハウを持つ玖珠町商工会と連携を図りながら、現在玖珠町が進めております玖珠町総合戦略においても、人材育成支援や振興策など今後検討してまいりたいと考えているところであります。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） 町内の企業の求人募集に人材が集まりにくいという雇用のミスマッチ、これはどこでもあるようなんですが、農林漁業系など考え方を变えて、新規高卒者の地元企業への就職、新規高卒者が地元の企業に就職した場合の支援する取り組み等というのを考えておられますか。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 農業の就農指導とかいう形なので、ちょっと私ども、その分野がちょっと変わってきますが、一応町内の中小企業者が人を雇うという件については、農林、建設、観光とか部署を超えて、その辺の対応をする時代が来ているのではないかというふうには考えております。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） 農業の新規就農者とかいうのは個人的に新規就農していく場なんですけれども、例えば林業関係とかでも会社、山師の仕事の会社があるわけですよね。そこに就職する高校生と

かもおられるかもしれません。また、農業に対しても、この企業立地促進の場合は結構大規模農業、畜産業とかいう結構大きな値なんですけれども、個人で経営されている農家というか、大規模というか中規模農家ですね。例えばナバをつくる工場とかそういったところに人が就職した場合、地元の高校生とかが就職した場合の支援のことなんですけれども、課が違うんですか。

○議長（秦 時雄君） 湯浅農林業振興課長。

○農林業振興課長兼農業委員会事務局長（湯浅詞朗君） 農業関係になりますので、私のほうから少しお答えを申し上げます。

まず、高校生等がその企業に就職をするというような形での支援策とかいうのは、なかなか今のところございませんが、例えば美山高校から大分県の農業大学等に行くというようなことになれば助成金、そういうふうなものがございます。また、企業というふうな形で、新規の企業というふうにつまえば、農林業関係は結構補助金が充実しております、その採択をどうするかというふうな議論になってこようかというふうに思います。

また、新規の就農者につきましては、その農業に従事するために研修を受けるあるいはそれ以後の農業を推進していくというような形での費用の助成というのはございます。ですから、それはその都度そういうふうな形でご相談を受けて、適切に対応を今させていただいているところでございます。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀君。

○2番（大野元秀君） 農林業系につきましては、そういった大学に行くとかそういった支援があるということなんですけれども、一般の企業、中小企業に就職する際に高校生、新規卒業者の支援等も考えていただきたいと思います。

もう最後になりますけれども、玖珠町総合戦略において人材育成支援や振興策ということで、先般メルサンホールで美山高校のパークマットの研究発表に見られたように、町内の若者の視点やアイデアもすばらしいものがありました。このような人材を町内に残すためにも、ぜひとも新規高卒者の地元企業への就職の支援をする取り組みや中規模事業者への支援を考えていただくことをお願いして、今回の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（秦 時雄君） 2番大野元秀議員の質問を終わります。

ここで昼食のため休憩します。

午後1時から再開します。

午前11時43分 休憩

△

午後1時00分 再開

○議長（秦 時雄君） 再開に先立ちまして、傍聴される皆さんにお願いします。

会議中は静粛に願います。

なお、会議中の言論に対し、拍手や可否表明などの言動は固く禁じられております。

また、会議の傍聴規則第7条並びに第9条の規定により、写真撮影や録音機器の使用は禁止されています。携帯電話、スマートフォンをお持ちの方は、電源をお切りになるかマナーモードに設定されますよう、ご協力を願います。

休憩前に引き続き会議を再開します。

次の質問者は、3番小幡幸範君。

○3番（小幡幸範君） 議席番号3番小幡幸範です。

当選後初めてになります。一般質問の機会をいただきましたので、玖珠町議会会議規則第61条の規定により議長の許可をいただきまして、一問一答にて質問させていただきます。

まず、プレミアム商品券について伺います。

プレミアム商品券は、地域の消費喚起と経済循環を創出することを目的として、商工会が行う商品券事業を行政が補助するものであり、平成27年度は国からの交付金として、地域住民生活等緊急支援を活用し、国内全域で実施されました。購入限度額や販売スケジュールは各市町村ごとに異なっており、本町においては7月と9月の2回に分けて販売が始まり、第1期販売の7月1日では1万6,500冊を販売し、第2期の9月6日には7,190冊をそれぞれ販売したわけですが、7月1日の9時に販売を始めて、同日の12時には完売となっていました。

平成27年の3月の議会において、議員の方から商品券の売り方を十分検討するよう指摘を受けていますが、商工会と売り方の検討は行ったのでしょうか。また、本事業は商工会へ業務を委託しているとのことですが、指導監督の立場である町として販売前と販売後でどのような指導を商工会へ行いましたか。担当課長の方にお伺いします。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 商工会の売り方の検討ということでございましたが、今回の消費喚起プレミアム商品券事業につきましては、議員おっしゃられますように、国の進める地方創生交付金を利用して全国的に取り組むことが予想されていたものが、玖珠町においても、地域振興に貢献する地元商店街において共通して使用できるプレミアム券を発行することが可能となるが、国の方針として、通常実施しているお買い物券よりプレミアム率が高く、また、高額となるということですが、商工会として取り組みができるのかということで事前協議を実施した上で、事業実施となったものでございます。

したがって、商工会の役割といたしましては、地元消費の拡大、地域経済の活性化、消費喚起に資するという国の施策の目的達成に向けて、玖珠町商工会が商品券の作成から販売企画、販売方法、そして、利用後の換金業務など全ての事務を担うことでプレミアム分の補助財源に国の交付金を充当するものであります。

ご質問の販売方法についてでございますが、商品券の販売については、20年以上の実績を持っている商工会に対しまして、町として販売方法など具体的な事項についての指示や指導はいたしておりません。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 3番小幡幸範君。

○3番（小幡幸範君） 3番です。

玖珠町商工会からいただいた平成27年度プレミアム商品券発行概要には、1人の購入上限は20冊、20万円までと書かれていまして、もし仮に購入者全員が上限の20冊を購入した場合、825人が3時間のうちに購入したという計算になります。少なくとも1時間に275人が販売所へ足を運んだことになるんですけども、各販売所での購入者情報の整合性はとれていたのか伺います。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 議員ご指摘の部分ですが、第1回目の販売日、7月1日以降、今回の事業の取り扱い窓口である商工観光振興課にも多くの住民の方からご意見、ご要望、お叱りの声が届いておりましたので、議員ご質問の販売形態、販売状況、購入者情報等の整理をした上で、多くの住民から寄せられた意見、ご要望などを取り入れて商工会販売実行委員会等の会議にも出席しまして、次回販売に向けて改善するように同席協議したところでございます。

整合性ということなんですが、実際内容的には、1人の方がご家族分を買ったというような事案はあるようですが、1人の名前で何枚もというようなことはなかったようでございます。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 3番小幡幸範君。

○3番（小幡幸範君） 3番です。

先ほどお話しいただいた内容だと、家族や知人の分の代筆購入を許可していたと。そうすると、働いている方であったり若者、また、町内の遠方に住んでいる方々が購入できていない状況となっていたと推測できます。購入用の引きかえはがきを送付したり、購入者の情報をシステムで管理共有するなど事務処理への対応、対策、依頼による購入は2世帯分までを上限とするような販売方法も検討するべきだったと思うのですが、そのあたりどのようにお考えでしょうか。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） ご指摘のところですが、午前中、藤本議員のところでも一応お答えしたんですが、今回、国の進める地方創生助成金を利用した地域振興に貢献する地元商店街等において、地域消費の拡大、地域経済の活性化に資するというを目的としてプレミアム商品券事業を実施しましたが、担当課として次年度以降も同じようなプレミアム率で事業を実施するとなった場合、議員がおっしゃられるように公平性を期するためには、全町民を対象に一定期間の購入申し込み期間等を設け、その後、申し込み者を対象とした公開抽選会を実施するなどの方法を検討しなければ、今回多くの住民の方々から寄せられたご意見、ご要望など反省すべき点をクリアできないんじゃないかというふうに考えるところでありまして、今後事業主体である商工会を含め関係機関との協議等を実施してまいりたいと考えているところであります。

○議長（秦 時雄君） 3番小幡幸範君。

○3 番（小幡幸範君） 今回の質問通告にはないことなのですが、関連の質問として、第2弾、9月6日の販売分の状況を教えてください。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 第2次販売の状況ということですが、9月6日の販売においては、販売対象者を町内者に限定し、まず第1回目の購入者を対象外とするために販売窓口での本人確認の事務等を行っていただきましたが、その事務が煩雑となり、事務手続に大幅な時間を要したとの報告を受けていますが、午前9時から整理券を配布し始め、10時より販売開始、午後4時半に7,190冊、プレミアム額では8,628万円が完売したとの報告を受けたところでございます。

○議長（秦 時雄君） 3番小幡幸範君。

○3 番（小幡幸範君） 3番です。

販売方法については、やはり第1回、第2回とよく検討しなければいけなかったのかなという結論に至ったと思います。

それでは、次の質問です。

8月22日の大分合同新聞にも掲載されていたんですけれども、販売日の7月1日以前に商工会が連合にのみ商品券の事前購入の申し込みを1,100セット分受け付けていたという記事が出まして、販売開始日に並ばなくても商品券の購入ができていたということに対して、公平・公正な立場である公務員が町民に対して不公平な購入を行うことに対し、疑問を感じなかったのかお伺いします。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） この件に関しましては、新聞報道等出ておりまして、いろいろ心を痛めているところですが、本町におけるお買い物券事業につきましては、平成3年度より玖珠町内の消費促進と小規模事業者への支援を目的に玖珠町商工会が二十数年以上取り組んできた事業でございます。この事業は、通常はお買い物券1枚500円を470円にて利用できるというもので、1枚につき30円のプレミアム、6.3%のプレミアムがついており、玖珠町内の趣旨に賛同された加盟店で利用できるというものであります。

この事業については、メリットとしては先ほどの6.3%のプレミアム分の価値がありますが、玖珠町内の加盟店のみの利用店制限と、あらかじめ定められた使用期限がありまして、利用期限を過ぎますと、価値のなくなる商品券であることから、事業主体である玖珠町商工会としては毎回多くの売れ残りが懸念されて、今回新聞報道等でありましたように、地域における小規模事業者支援策の協力を求めて労働団体組織に購入をお願いしてきた経緯、歴史があり、今回も通常と同じように実施してきたとの報告を受けたところであります。

しかしながら、今回の20%プレミアム商品券の販売事案においては、やはり20%のプレミアム率の効果と住民である消費者の気持ちとを読み違えたことによるものであり、販売する日の曜日設定、販売限度額設定、町内在住者に限るなどの対象者の設定など多くの問題、課題を残したものとなり、大変残念に思っているところであります。

○議長（秦 時雄君） 3番小幡幸範君。

○3番（小幡幸範君） 3番です。

過去のいきさつであつたりこれまでの慣例もあつて、地元商店街の活性化のことをもって皆さん購入を行った関係者の思いというのは非常によくわかります。ただ、売れ残りを防ぐことを考えるのであれば、まず町内のPRに力を入れたり、売れ残ってから購入する等の対応をまず検討するべきだったと思います。

今回の問題は多くの新聞、メディアにも掲載されまして、インターネットには700件を超えるコメントが掲載されています。その主なものは、公金横領であつたり組織的着服、インサイダーまがい、違法行為など政党批判や玖珠町、ひいては大分県の批判にまで発展しています。日本国中から書き込みをされているわけですが、疑いや憶測を緩和するためにも、行政は説明責任を果たす必要があると私は思うんですが、そのあたりいかがお考えでしょうか。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 今回のプレミアム商品券事業につきましては、プレミアム率が高く、全国的に初めての取り組みであり、多くの反省点を残す結果となっております。これは我が町だけではございませんが、補助事業の窓口である当商工観光振興課にも事業の実施内容、あり方について住民の方々より多くのご意見、ご要望、ご批判をいただいているところであります。特に商工会の事務局におきましては、想像以上の多くの問い合わせ、ご意見、お叱りの声が寄せられ、その対応が大変であつたというふう聞いておりますが、議員各位におかれましても、多くの住民の方々からのご意見、ご要望があつたと推察いたしております。

今回の事態は、プレミアム率20%というものの与える影響の見込みの違い、全国的取り組みとなつたことによる新聞、テレビ等のマスメディアの取り上げによる関心度の高まりを予想していなかつた見込みの甘さによるものと反省しているところであり、事業実施団体である商工会等についても、この旨考慮したいと思っております。

それから、今回玖珠町商工会がこれまで二十数年の同事業の販売経験に基づく売れ残りの心配から従来どおりの購入依頼を実施したとのことでありますが、一部の住民——労働団体等と聞いておりますが——を優遇する目的、悪意や意図的なものでなかつたことは担当課として認識しているところでありますが、結果的に購入希望者が多く商品券が不足し、多くの住民の方々にご迷惑をおかけしたことについて、本件に関するお問い合わせ、ご要望、お叱り等について担当窓口として心より対処し、おわびするとともに、今回の経験を肝に銘じ、同事業を含め今後のまちづくり事業、この事業につきましては、商工会とともにまちづくりの推進について取り組んでまいりたいというふう考えているところです。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 3番小幡幸範君。

○3番（小幡幸範君） 3番です。

今回の対応された件、よくわかりました。プレミアム商品券の購入について関連の質問になるんですが、地方公務員法において第30条に全て職員は、全体の奉仕者として公共の利益のために勤務し、かつ職務の遂行に当たっては全力を挙げてこれに専念しなければならないと規定しています。また、第33条には、職員は、その職の信用を傷つけ、又は職員の職全体の不名誉となるような行為をしてはならないと服務にも明記されていますし、玖珠町の職員服務規則の第2条にも職員は、地方公務員法の趣旨にのっとり、町民全体の奉仕者として職務の遂行に専念しなければならないと明記されています。

町長の諸般の報告でもたびたび出てくる法令順守という言葉とはまさに反対の行為になるわけですが、今回の件について公務員の立場としてどのように受けとめているか、町長のお考えをお聞かせください。

○議長（秦 時雄君） 朝倉町長。

○町長（朝倉浩平君） 基本的に今回のプレミアム券につきまして、国とか県とか町の補助金については、交付した先に裁量権を任せるとというのが基本です。そこで縛りをつけて、こちらからこういうものをやれとか何とかという行政からやることは、基本的にやりません。基本的に交付した人の裁量権に任せるのが基本です。その中においても法的に問題があれば、これはもう我々は交付した金にどれだけの管理監督義務があるか、基本的にはもう有効利用していただくだけで、交付先に任せるとというのが基本です。

そして、今公務員の何とかとおっしゃるんですけれども、ちょっと私、違うんじゃないかと思うんですね。服務規定とか今回の場合は、服務規定に違反して買ったというんじゃないんですよ。それは公務員として守らなきゃいけない服務規定はあります。国家公務員としては、ストライキしちゃいけないとか守秘義務があるとか、地方公務員の住民の福祉、今回のところ、公務員の服務規定とはちょっと論点が違うんじゃないかという感じがいたします。

○議長（秦 時雄君） 3番小幡幸範君。

○3番（小幡幸範君） 3番小幡です。

今回の件について、町内では誰が商品券の重複購入を行ったのか、また、町民同士が疑いの目でお互いを見るような状況になっています。我々議会議員に対しても、議員優先枠があったんじゃないか、恩義を売り次回の選挙で活用する狙いがあるのではないかなど厳しい意見をいただいています。行政、議会、そして、町民同士の信頼関係がなければ自治体組織はあり得ませんし、地方分権などそれこそ不可能だと私は考えます。今後どのようにして町民の信頼回復につなげていくのか町長のお考えをお聞かせください。

○議長（秦 時雄君） 朝倉町長。

○町長（朝倉浩平君） 信頼回復、ちょっと理解できないんですけれども、公務員の服務規定と今回のものはちょっと論点が違うんじゃないかと思うんですね。今回につきましては、やはり先ほど申し上げましたように、交付したところについて縛りはかけない、自由に使っていただく、そこに縛りを

つけたら自由にお金が使えない。そこにおいて法律的な問題があれば、刑罰的な問題があればそれはやりませけれども、信頼回復とかちょっと私、その言葉についてどういうふうに答えていいかわからないんですけども、今後は管理監督義務があるとすれば、やはり行政として今後こういうことをしないようにしてくださいということじゃないかと思えますね。信頼回復とか、これはもうどうしていいかちょっと教えていただきたいということで、今後の対応を考えていくということじゃないかと思えます。

○議長（秦 時雄君） 3番小幡幸範君。

○3番（小幡幸範君） 3番です。

えりすぐれた町職員がいるにもかかわらず、ちょっと今回の件というのは想定していなかったことだと私も考えています。公をつかさどる公務員として公平・公正な行動を心がけていただいて、町民目線で今後の福祉向上に努めていただけるよう期待して、次の質問に移ります。

次に、玖珠町の防災対策について質問いたします。

去る7月8日の大雨にて日出生地区では床下浸水と土砂崩れが発生して、岩室地区の谷側におきましては、あと三、四十分雨が降れば河川が決壊し、床下浸水の一步手前まで災害が迫っていたということで、非常に危険な状況だったと思えます。また、7月13日に大分県南部で発生した地震につきましては、本町では震度が2だったために大きな災害に発展することはありませんでしたが、ここ数年の大雨、大雪、地震、災害への対応を改めて考えるよい機会だと思えます。

質問に移りますが、まず防災訓練の見直しについて伺います。

私自身は東京で東日本大震災を経験しまして、日々の防災訓練の大切さを思い知ったわけですが、本町における過去の災害分析や防災訓練の実施計画についてどのようにお考えかお伺いします。

○議長（秦 時雄君） 藤林環境防災課長。

○環境防災課長兼基地対策室長（藤林民也君） 議員の質問にお答えをいたします。

平成23年3月の東日本大震災や平成24年7月の九州北部豪雨、また、最近では昨年8月の広島市の土砂災害等、また、先週の台風18号による大雨の被害等、近年、日本各地で大規模な災害が発生しており、災害から身を守るための防災訓練の重要性がこれまで以上に高まっております。

本町におけるこれまでの防災訓練の実施内容につきましては、平成25年11月に全国一斉に行われました緊急地震速報訓練にあわせまして、町内で震度5弱の地震が発生したことを想定して避難訓練を実施し、3,200名余りの町民の方々に参加をいただいたところであります。

また、昨年は避難訓練の検証を踏まえまして、防災に対する知識を高めていくことを目的として、自助、共助の取り組み等について自治委員、民生委員の方々を対象に防災講演会を4地区コミュニティごとに開催してきたところでございます。防災講演会を受けて自主的に地区及び自治区等で避難訓練、炊き出し訓練、消火訓練等の訓練を行っているところもございます。

本年度につきましては、議員の皆様にもご臨席いただきましたが、隔年で玖珠郡で行っております防災訓練を大分西部総合防災訓練と位置づけまして、栗野運動公園、九重保健福祉センターにおいて

大分県や民間を含めた防災関係機関、団体、地域住民の参加によりまして防災訓練を実施してまいりました。また、各地区コミュニティに防災訓練の実施についてお願いをしているところがございますが、現在のところ具体的な実施計画には至っておりません。今後といたしましては、各地区コミュニティや関係機関と連携をとりながら、避難訓練等の防災訓練を計画、実施してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 3番小幡幸範君。

○3番（小幡幸範君） 3番です。

災害時に集まれる施設に集まるということが優先されているようにも思えるんですが、そういうことでは住民の安全というのは守れません。大規模広域災害時において、公助の限界は明らかであり、自助、共助による取り組みがやはり重要となります。地域住民による自発的な防災訓練を支えるためにも、全町できちんと最終避難場所まで避難する訓練や過去の災害分析から火事、水害、地震それぞれの種別ごとの訓練の見直しが必要だと考えます。

また、平成25年6月には災害対策基本法の改正があり、地域コミュニティによる自発的な防災活動を地域防災計画に定めることができる地区防災計画制度が創設されましたので、制度の特徴を踏まえ実施計画の充実を図り、地域の防災力を高めていくことを期待します。

次に、高齢者、乳児、障害者などいわゆる災害弱者への対応について伺います。

災害時みずから避難できない方については、あらかじめそのような方がどこにどのぐらいいるかということ把握しておく必要があります。また、援護、避難していただくことを想定して準備しておくことも必要です。まず、本町では災害時の避難に援護が必要な方を把握されているかどうか伺います。

○議長（秦 時雄君） 江藤福祉保健課長。

○福祉保健課長（江藤幸徳君） お答えします。

災害時避難行動要支援者というふうに呼びますけれども、支援者の把握につきましては、手挙げ方式によります調査を23年10月に行いまして、地元自治委員、消防団、担当する民生委員さんに台帳としてお渡しし、現在も活用されております。当時、全町合わせて1,400名分の台帳になっております。現在は担当する民生委員さんが町の住民課で定期的に死亡された方、それから、転入・転出等の移動を確認しながら、ふだんの声かけ、見守りの中で確認をしておるところでございます。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 3番小幡幸範君。

○3番（小幡幸範君） 3番です。

返答に対して再度質問いたします。

水害などでは、ただ避難の指示をするだけでは、家にいれば助かったのに避難しようとして逆に水に流されたり、避難途中で土砂崩れに遭ったりということもあります。特に災害弱者に対しては、十

分に援護の処置をとらなければならないと思います。また、避難施設も一般の方々とは違う、ある程度整った施設でないといけないと思うのですが、避難支援の方針、避難施設の整備状況についてどれくらい整っているか伺います。

○議長（秦 時雄君） 藤林環境防災課長。

○環境防災課長兼基地対策室長（藤林民也君） お答えをいたします。

避難支援の方針についてですが、災害時避難行動要支援者の方々につきましては、避難に際し手助けをしていただける方、近隣協力員の方を1名ないし2名お願いをしております。避難の際は協力員の方に手助けをしていただくこととなります。ただし、地域の事情、また本人の事情により全ての要支援者の方に協力員がいるということとはなっておりません。また、各地区の消防団へ担当する地区の災害時要援護者名簿を本人の同意を得まして配布いたしており、避難の際には協力をお願いしているところであります。災害時の避難支援につきましては、自助、共助の面で近隣の住民、自治委員、民生委員、消防団の方々にご協力をいただくこととなります。

避難施設の整備状況ですが、町内12カ所に指定避難所を設置いたしております。それぞれ自治区ごとに避難所を指定しており、特設公衆電話、テレビアンテナ等を設置しております。また、乾パンや水などの非常食や毛布、灯光器、ラジオ、発電機等を備蓄し、避難に備えております。指定避難所の中には学校の体育館等もございますが、高齢者や障害者など災害弱者の方につきましては、比較的施設が充実した自治会館等への避難も可能でございます。また、必要に応じて福祉避難所への避難をしていただくこともございます。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 江藤福祉保健課長。

○福祉保健課長（江藤幸徳君） 高齢者や障害者等の避難につきましては、町内に介護保険サービス事業所7カ所を福祉避難所に指定いたしまして、災害時55人分の要介護者あるいは重度障害者等の受け入れができるようにしているところでございます。

近年、実例はございませんけれども、引き続き緊急時に対応できるよう関係者と連携を図ってまいりたいというふうに思っております。

○議長（秦 時雄君） 3番小幡幸範君。

○3番（小幡幸範君） 3番です。

災害対策は人命にかかわることなので、住民はもちろん警察、消防等関連組織への情報提供も可及的速やかに行うことを心がけていただいて、私の一般質問を終わります。

○議長（秦 時雄君） 3番小幡幸範議員の質問を終わります。

次の質問者は、13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） 13番繁田です。

私は今回、5項目にわたり質問をさせていただきます。

さきの東北3県の豪雨被害は甚大なものがあり、この災害で多くのものを失われた方々へ心からお

見舞いを申し上げます。災害のたび、先ほど藤本議員さんも申されましたが、私は昭和28年の堤防決壊によるあの水害被害を思い出します。当時6歳だった私は、あのときの状況を今も忘れることなく記憶に残っています。町民が安心して安全に暮らせるまちづくりを目指す、自治体としていかなる災害にも対応できるような組織をつくることも大切ではないでしょうか。

私たち議員は議会での質問項目を組み立てます。通告制度ですから、何点かにわたって質問いたしますが、通告をした後にあれを言えばよかった、これを聞けばよかったと後悔することもたびたびでございます。ある方は、「繁田さん、今、玖珠町に働きに来られている外国人の方が何名いるか知っていますか」と尋ねられます。現在、約100名近くの方がこの玖珠町で働いているそうでございます。その方は遠く離れた外国の地からこの玖珠町に働きに来られている、そのような方々をきちんと把握して、年に一度ぐらい、一堂に会して町としてお話を聞き、歓迎してみたらどうかとアドバイスをいただきました。大変温かみのある考えで、ぜひご検討していただきたく思いました。通告前なら1点つけ加えて質問させていただきたいところでございますが、通告外でありまして、自分が感じたことを述べさせていただきます。

私は、今回その項目の中でカウベルランドと三日月の滝公園の現状と今後の運営について質問しています。両者とも経営状況が大変厳しいとお聞きしています。今後の具体的な対応について、玖珠町としてどのように考えているのか、カウベルランドについては、オープン以来20年目近くを迎えています。ウエストファームで豊後牛の飼育をし、カウベルランドに牛肉を提供する、豊後玖珠牛のブランド化と玖珠町の肥育、繁殖に大きく貢献した経過もございます。この間、経営として紆余曲折あり、この運営に携わった当初の出資者は、現在大変な状況にございます。特に自宅を含め全ての担保を提供し、この運営にかかわったばかりに財産の全てを失おうとする方もたくさんあらわれています。確かに経営責任は当事者のものであります。しかし、ずぶの素人の方にこのような大規模な事業を勧めた自治体として道義的な責任を感じるのは当然かと私は思います。

今になってかようなことを申すのはおかしいかもしれませんが、しかし、この厳しい現状について、この間かかわってきた自治体として、困窮する経営状況にどうかかわり、手助けをするのかも自治体の道義的責任ではないだろうかと思っております。今後の運営にどうかかわり、どう救済するかお考えをお聞きしたいというふうに思います。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 議員ご質問の2施設を含めまして、平成24年4月より町内の収益性のある指定管理施設、カウベルランドくす、三日月の滝公園施設、伐株山憩いの森施設、それから、道の駅童話の里くすの4施設につきましては、その施設の有効利用、そして、その対外的PRをするために当商工観光振興課にて所管することとなったものでございます。

議員ご指摘のカウベルランドくすにつきましても、3年前より当課が所管しているところであり、当課としてはカウベルランドくすに少しでも多くの来場者があるようにと、遊休化していた駐車場を利用しての必要経費は全て企業が負担する形で、レンタルゴーカート、カート教習所の事業開始等の

事業展開を模索しているところでございます。

また、本件に関しましては、繁田議員を初め多くの議員の皆さんからもご心配やご意見、そして、ご提案をいただいているところでありまして、議員ご指摘のように同施設の経営については豊後牛の仕入れ値の高騰など大変厳しい状況であります。担当課といたしまして、同施設の設置目的に沿うよう、今後の施設の利活用について取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

特にカウベルランドくすにつきましては、先ほど議員おっしゃられましたとおり厳しい状況で、これまで苦勞されております。これまで社長と一緒に契約している税理士のところへも一緒に出かけ、今後の経営のあり方、時代に合った経営方法などについてご相談、ご協議を実施しているところでありますが、現在、役場内の農林業振興課、まちづくり推進課、商工観光振興課の3課の職員、特に若い世代の職員によるプロジェクトチームを組織して、カウベルランドくすの今後のあり方について検討を進めているところであります。

また、三日月の滝公園についてのご質問でございます。

この施設は都市と農村の交流施設として多くの地域、北山田地域、住民の方々の発想と努力によりまして、平成9年度に玖珠町が施設を建設し、運営は住民が担うという公設民営施設で整備されたものでございます。同施設の運営状況についてですが、キャンプ場や温泉施設、パークゴルフ場の建設などにより、一昨年までは年間2万人以上の町内外の方々が訪れる施設となっておりますが、現在では諸般の事情により、それぞれの運営が大変厳しい状況であるところでございます。

この三日月の滝公園施設につきましては、今議会の補正予算に上程しておりますが、同施設の建設目的を満たすチャレンジを実施したいと考えております。今回、国の進める地方創生の取り組み、自然豊かな田舎まちで癒やし体験と題しまして、都市と農村の交流・定住促進の事業を実施したいと考えているところでございます。事業の目的、内容につきましては、恵まれた自然景観を生かして都市圏で生活されているご高齢者や農作業体験希望者、農林業や環境問題に取り組んでいる大学生などをターゲットとして、農業体験や豊富な薬草採取、カヌー体験など自然に触れる体験プログラムを構築して、都市と農村の交流、癒やし体験、ひいては自然豊かな田舎まち玖珠への定住促進チャレンジとして、現在国のほうに交付金の申請をしているところでございます。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） カウベルについては、プロジェクトチームをつくって検討中ということですね。カウベルの経営状況は厳しくなっても随分になります。今ごろになって検討してどうなるのかというふうな思いもありますが、より具体的な対策を何も考えていないのか、この間。例えばいつだったか、モクモクファームか何か来て、カウベルランドで一緒に手を携えてというふうなお話も聞いたことがあります。でも、あくまでそれは夢物語であって、今日何も進展していない。本来、施設をつくったら、ディズニーランドじゃありませんけれども、3年、5年、10年、常にリニューアルをして、より魅力的なものをつくり続けていくことによって初めてお客さんが継続をしてくれる、リ

ピートして来てくれるというふうなことがありますから、私は今ごろになってこんなことを言うと経営者の人に叱られますけれども、もっと早い時点からそういった取り組みを行政と一緒にやらなければいけなかったのではないかというふうに個人的にも私は反省をしているところであります。

しかし、当面一番何が問題かという、やっぱり経営状況は厳しいわけですから、もう少し具体的な例えば経済的な部分でバックアップできるような方法はないのか。かなり新しく朝倉町長になってから固定資産税とかいろいろな部分で優遇措置を何点かしていただいているけれども、もう根本的な部分が厳しいので、さらにこの間、何か考えていなかったのかというのをもう一回お尋ねします。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） カウベルランド等につきましては、当初豊後玖珠牛の肥育販売という形で設立されておりますが、時代が確かに変わっております。議員おっしゃられますように、何かなかったのかということで、現在、先ほど申し上げましたが、プロジェクトチーム等の中で新たな担い手の模索等も検討しているところでございます。

現在やられているカウベルランドくすの立場等も負債の状況等がございまして、なかなか進んでおりませんが、現在新たな担い手なり共同経営者なりの模索をしているところですが、カウベルランドにつきましては、施設を建てたときに土地は現在地域の方々の共有地でございます。その使用料もカウベルランドが担った上での建設になっております。

建物は町が建てたということで、現在カウベルさんもそういう使用料等ございまして、その辺の仕組みの見直しを今練っているところでございますが、今回、せんだって議員様方と山口怜子様との意見交換会のときにあったんですが、外から見る福岡地域のNPO法人等から見れば、もっと有効な利用があると。あそこをこういう形にしてはどうかというふうな具体的な方策案等も現在受けているところでありまして、担当課としましては、一刻も早くあその有効利用について取り組んでまいりたいというふうに思っておりますし、指定管理者にこれまで正直言って丸投げの状況であります。施設の設置責任者としての責任もしっかり考えていきたいというふうには考えております。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） 今、課長がおっしゃいましたけれども、先日議会と山口怜子さんとの意見交換会がございました。そのときに今、課長が言われたようにカウベルランドの再生は可能ではないかというふうなアイデアを幾つかいただきました。これは私たちが考えることができない部分を山口さんがアドバイザーとして、こんなことも取り組んでみたらどうかというふうなお話でした。

キルトの大規模展示場をつくって見たらどうか、全国にはキルトの方々650万人ぐらいでしたか。仮にその1%が来ても6万5,000人の人が来る可能性がある。そこで、キルト作品の全国的なコンクールをやったらどうか。そのためにはキルトを提出する人たちがほとんど自分で参加費を払って参加するそうです。それから、ある既存の施設を利用してキルトミュージアムをつくって、そこで今まで行われていなかったようなオークション会場をやってみたらどうかと、そういうふうなことを何点

か指摘をいただきました。

私は、もう自分たちの力ではどうしようもないし、能力もないし、アイデアもないわけですから、この際、そういった部分を執行部内できちっと捉えて、それで再生の可能性があるかどうかというのを本当にまじめに、真剣に議論していただきたいというふうに思いますが、その件についてはどう考えますか。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 議員おっしゃられますように、先日、山口怜子さん、昨日もこの件で話をいたしました。実際可能性はあると。福岡から1時間ちょっと、福岡の方が来て疲れな一番いい距離ですと。高速をおりてすぐのところであり、やり方次第ですよということで、あす、あさって以降、福岡の方に一緒に来ていただいて、現場も見るとなると手はずになっておりますので、何とか有効利用する方向で考えていきたいと思えます。

○議長（秦 時雄君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） そういうことを先に言えばいいんや。何かちょっとしたアイデアを隠してもうちょっととかじゃなくて、こういうことを一生懸命取り組んでいますと言わないと、こっちが言うてからそんなことを言ったのでは、いつも後々になってしまってから。だから、本気で私はなぜその山口さんをというふうに言うかといいますと、まず、昨年玖珠の旧森町で軒下キルト展をしていただきました。かなり多くの方がお見えになりました。しかも、お隣の日田市やいろんなところから山口さんの持つこのキルトの魅力を訪ねてくるわけです。

それから、長崎の山口さんが長崎美術館でキルト展をしたときも長崎まで行きました。長崎の人たちがもう会場に連日キルト展を見に来るわけですよ。だから、私たちはキルトとかそういったパッチワークというのは知らないから、そういうふうな人が本当に来るんだろうかというふうに思っていたところ、長崎なら長崎近辺の人たちが本当にたくさん来ます。それから、山口さんの久留米のところで行われているキルト展についても拝見に行きました。東京からわざわざそのキルト展を見に来ているわけですよ。そこで知り合った方々と私たちは今でも交流を続けていますけれども、だから、そういった部分のもう一回再分析をきちっとして、この際、もうどっちみちうちの町も経営状況が厳しいなら厳しいなりにきちっと予算をつけてやらないと、何でもかんでもボランティアでは事は成就しません。必要な部分に必要なお金はきちんと出してもらって、一回かけてみる。三日月の滝もそうです。それから、カウベルランドもそう、旧森町もそうですね。

だから、本当に山口さんの持つ人的ネットワークというのは、恐らく多くの人には知らないと思えますけれども、それはもうとてもはかり知れない人的ネットワークを持っていますから、山口さんが気持ちよくこの玖珠町のために仕事をしていただけるような環境整備をすることも私は大切だというふうに思えますから、その件について課長、どういうふうに思えますか。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 議員おっしゃられますように、山口怜子さんの人脈というか人と

のつながりははかり知れないものがございまして、私、毎回びっくりする方をお連れになられます。今回、あす見える方も東京のほうから日本でも有数のプロデューサーみたいなようです。ちょっとお話に行かせていただきます。

それと、現在、去年に引き続きまして、森の街並み、今年、国の登録文化財になりました酢屋さんのご協力を得まして、一応現在パッチワークキルト展を実施して、毎週土日をあけておりますが、今職員交代で土日に出ておるんですが、毎回県外、福岡、北九州、中津、別府、県外の方が必ずご家族、それとお友達を連れて見えております。森の街並みに土日に来ておりますが、予約をいただければ月曜、平日もあけていただいておりますが、すごい人が来ております。

今回のシルバーウイーク期間中も全部あけてもらうということでやっておりますが、本当に現在来ていますが、来た方に一応私どもは観光案内いたしまして、まず、皆さんはどこでお食事ができますか、どこでお土産が買えますか、とありますので町内の場所を案内して、場合によってはそこまで連れていくという形の動きをしていますので、ここから先は地域の住民の方々も経済効果を求めたおもてなしなり経済効果を求めて頑張ってもらいたいというふうに考えているところですが、町としても現在、水戸岡鋭治さん、山口怜子さんのお言葉をしっかり受けとめて前向きにいきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

○議長（秦 時雄君） 13番 繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） そういった部分を課長がきちっと認識していただいて、取り組みをしていただければ、私はまだまだ可能性を見出すことができるというふうに思っております。

先日の日曜日、3時過ぎに県体から私たちは帰ってきました。先ほども言っていましたけれども、機関庫のところに車がずらっと並んで、もうたくさんの方がいるわけです。何をしているんだろうかといったら、河野議員さんがミニ列車か何か走っているんじゃないですかというふうに言うんです。言われたから、ああ、そうかというふうに思っておりましたら、何とななつ星と或る列車のスイーツ列車が2台一緒に見える日がきょうのこの時間なんだとあって、県外から多くの方が注目をして、機関車を見るわけですね。だから、これに私たちが気がつかないんですよ。自分たちの町が持っているよさというのは、なかなか自分たちでは気がつかない。協心橋の付近から見たあの美しい景色は、伐株山の上から見た美しい景色は、よその人から見ると本当に素晴らしい景色に映るらしいですよ。

だから、そういったことをきちっと踏まえて、町が持つ魅力をもう一回、藤本議員さんが言いました点と線と面を結ぶためには、幾つかの面それぞれが魅力あるものでなければ、これがつながらないわけですから、ぜひ三日月とカウベル、これは本格的に山口さんのアドバイスをいただいて考えていただきたいと思えます。

余り興味がないようございすけれども、町長、どう思いますか。

○議長（秦 時雄君） 朝倉町長。

○町長（朝倉浩平君） 決して興味ないわけじゃございせん。やはり我々はアドバイスをいただいたとき、言葉がいいかどうかわかりませんが、よそ者、若者、ばか者という言葉があります。我々は

先ほどおっしゃられたように、やはり玖珠町の自然、歴史、食とか非常にいいところがあるんだけど、なかなか気がつかない。それを外部の人に見てもらって、それを少しずつやはり開発してブラッシュアップといいますか、磨き上げしまして、そして、やはり交流人口をふやして、そして、お金を落としてもらうというシステムを少しずつ水戸岡さん、山口さんにアドバイスしていただいたおかげで、少しずつ進歩していているんじゃないかと思います。

これは一朝一夕にできないんですけれども、スピードをもってやらなきゃいけないというふうに思っております。決して興味がないわけではございません。一生懸命担当課にどういうふうにしていくかと。お金をかけているわけですから、その効果をやはり求めていかなきゃいけないというふうに思っております。

○議長（秦 時雄君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） 議員も14人おられますと、全ての人が理解しているわけではないです。賛成の人も反対の人の意見もあります。でも、水戸岡さんが本当にいいことを言うのは、「それは繁田さん、自分の思いを全部みんな理解してもらおうと思うのは大きな間違いですよ。でも、何か事をなし遂げようとするときには、納得はしてもらえなくても、せめて言っていることを理解してもらいなさい。理解してもらって事が進むんですよ」と。なるほど、なかなか人間というのは、理解は簡単にするけれども、納得して一緒に行動ということにはならないと思いますけれども、私は議員の皆さんにそういった部分について理解をしていただいて、本当に藤本議員さんも言っていましたけれども、山口さんと水戸岡さんが一緒にまちづくりのアドバイスをいただいているなんて本当にすごいことですよ。これは博多駅ビルの社長が、お二人をよく知っている方がそういうふうにおっしゃっていました。

こういう機会はめったにないことですから、もう残り期間も少ないけれども、先ほども大野さんの質問に、大野さんは11月で水戸岡さんと契約が終わったら、あとはどうするんですかということが多分お尋ねになったと思うんですね。私が個人的に思うには、11月で一回契約が終わったら、あと具体的にはそれ以降に完成してくる部分が出てくるわけですから、やっぱり当面アドバイスも必要だろうし、完成すれば落成式には来ていただきたいというふうに思うし、そういった部分も担当課長として今後水戸岡さんとどうつき合っていくかというのも早急に考えて、この結論を出すべきだというふうに思っております。

次に、以前1回質問したことはございますが、町のデータを集積する、すみません、ビッグデータのほうです。観光拠点づくりにビッグデータの活用を考えてみないか。機関庫、伐株山、旧森地区、三日月など玖珠町を訪れた方々は、観光地としてどこを散策しているか、このビッグデータというのを活用すればわかると、そういうふうなことについてどういうふうに考えているかというのをお尋ねいたします。

○議長（秦 時雄君） 衛藤総合戦略室長。

○総合戦略室長（衛藤 正君） 議員さんの質問にお答えいたします。

ビッグデータというのを若干説明したいんですが、ビッグデータとは膨大かつ多様なデジタルデー

タの集積のことで、文字、数字、図表、画像、音声、動画などさまざまなタイプのデータが含まれます。従来、こうした大容量のデータは取り扱い自体が困難でしたが、コンピュータ技術の進化や低価格化により効率的・効果的な処理や活用が可能になり、ビッグデータの解析から得た知見をマーケティングなど企業経営や新しいビジネスの創造に生かそうという動きが現在活発化しています。

また、本年4月より国による地域経済分析システム、リーサスと呼ばれていますが、リーサスのデータ提供が開始されました。このシステムは、産業マップ、観光マップ、人口マップ、自治体比較マップの4つのマップから構成されており、今後も順次データの追加や更新が行われていくものとされています。この中の観光マップでは、携帯電話の位置情報を利用して、人の移動を見える化し、人の集積度合いをメッシュ化して、流動人口、滞在人口、滞在人口率の分析を行うことができるとされています。

しかしながら、現時点ではデータがこの分については、国のシステムについては玖珠町にどれくらい来たとかいう拠点までは現時点ではわかるようにはなっていません。また、そういう分析は行われることができるとなっているんですが、現在まで自分たちが見ている中では、このシステムから得られる情報の分析までは、実際にはできていない状況にあります。また、これまでに業者による情報提供システムの提案もございました。経費もかかることから、どこまで正確で詳細な情報が得られるのか、また、タイムリーな情報なのかどうかなどこれから研究していきたいと思っているところであります。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 13番 繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） きょう午前中、質問の中で言っていましたよね。具体的な数値目標を設置しないでいろいろやっても、これは効果ないじゃないかと。効果を見るためには、若干お金がかかっても、そういったデータをきちとまずきょうの仮にデータを購入したとしますよね。そして、例えば半年なら半年後のデータをもう一回購入しますと、その中で言うなれば交流人口や観光人口がどこにどういうふうに行ったというのが先ほど言われました例えば500メートル四角の範囲内とかを幾つか限定すれば、きちとあらわれるらしいんですよ。

だから、今後はこのビッグデータという部分についてやっぱり活用方法をもう一回勉強して考えてもらいたい。きょうは地域再生本部でこのビッグデータの活用についてという全国的な会議が行われているというふうにもお聞きしました。これから先はさっき言ったような膨大なデータをきちと分析して処理する能力が出てきますから、そういった部分にいち早く手がけて、ここに投資したら費用対効果が出るのかどうかというのは、常にもう具体的な数字があるわけですから、そういった部分から再度このまちづくりや観光拠点づくりを考えていただきたいというふうに思っております。そういう部分については、初めての質問でありますから、しっかり勉強していただきたいということを申し添えておきます。

次に、私はさっき言いましたように、これからはどうしてもこの地域が持っているデータというの

が、統計というものがまちづくりにしろ何にしろ大変必要な時代を迎えると思います。例えば玖珠町の中には町道の長さが何キロあって、河川が何本あって、橋が何個かかって、コンビニが幾つあってといったような、病院が4地区に分けたときに幾らある、これから一番問題になっているのがガソリンスタンドですよね。だんだんガソリンスタンドが地域からなくなっていったときに、冬場の灯油をどうするかとかいう部分でデータをきちっとっておけば、町として対応策が打てるわけです。

私は議員として判断するときには、その統計をもとに判断をします。ただ、自分でデータを調べます。4地区に町道があります。町道の長さは地区別によって違いますけれども、では舗装率はどうなっているか。そうすると、議員がいる、いないにかかわらず舗装率というのは大きく変わりません。ということは、公平・公正に町政が行われているのがそのデータを見ればわかるんですよ。ですから、そういった部分のデータをきちっと今後やりませんかと言ったら、大変いいことですから、早速やってみましょうということは聞いて、その後どういうふうになっているかということについて担当課、担当係はどうなっているかということについてお尋ねします。

○議長（秦 時雄君） 穴本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（穴本芳雄君） 繁田議員の質問にお答えしますが、以前も繁田議員、この件についてご質問をされておまして、当時の課長は情報管理係が担当しておるといような回答をさせていただいております。その後、昨年からは組織改編がございまして、私ども広報係が今ホームページ等を持っておりますので、ホームページ上へのアップ等はこの広報係がやっておりますので、そういったところで私も質問の回答をさせていただきたいと思っております。

各種データというところがどこで見られるか、見ることができるかということでございますけれども、今、まずは町民手帳とホームページで皆さん見ることができるというふうに私どもは考えております。まず、町民手帳は、これはもともと県民手帳でございまして、この県民手帳を利用させていただいて、玖珠町の各種データ、観光などの情報をその県民手帳に追加情報、初めのほうに記載をして発行させていただいております。その内容は、町章、町民憲章、町歌、昭和30年からの町の歩み、町の位置、面積、標高、主な山岳、主な河川、気象、年次別人口、産業別人口、ちょっと長くなりますが、申しわけないです。

○13番（繁田弘司君） いや、もう短く言いなさい。

○まちづくり推進課長（穴本芳雄君） そういったいろんなものあるいは各種委員さん、そういったもの、学校等載せておるものがございます。ホームページも同じようなものを載せておって、当然国勢調査の人口とかそういったものも今、載せておるところでございます。

○議長（秦 時雄君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） わからんことはないけれども、私はより具体的な町独自のデータをつくってやるべきだということを前回言ったわけですよ。それから何もやっていないわけですよ。例えば前回から比べて統計の度合いが進んでいるか、町独自の工夫をしたか、さっき言ったように、これは県下の中のデータを見せて、ガソリンスタンドが何軒ある、コンビニは何軒ある、病院は何軒あるとか

そういうことは入っていませんよ。でも、うちの町にとっては、これから先必要なデータとして工夫をして、その独自のデータをつくっているか、つくっていないか。この1年間か2年か何もやっていないわけですよ。もうこれ私、わかります。だから、この部分についてはもう一回、再度きちっと町独自の工夫した統計をやるということを考えてみるかどうか質問いたします。

○議長（秦 時雄君） 穴本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（穴本芳雄君） 今回質問を出された後、広報係とも話をしておるんですけども、やはりデータをどう見やすくするか、この辺は話をさせていただきましたし、これまで個々に挙げられていないやっぱりいろんなデータあるいは統計があるものが出されていないかというの少し見直しをさせていただいたところ、いろんなものがやっぱりございまして、例えば国勢調査とかそういったものは、これまでどおりやっぱりそれはずっと大事なところですから載せさせていただいておるんですけども、特に最近はスマホあるいはタブレット端末、こういったものがかなり普及をしてくるおって、そこからも見ることができるということを考えれば、私ども役場内であるいろんなデータを載せていかなきゃいかん、そういう考えに私どもは至っておりまして、そうすると、どのように見やすくしていくのか、そして、そこには私どもだけではなくて、それを見た方々がいろんな分析をそれなりにできるだろうと。そういう部分でのこのデータ掲載といいますか、そういう部分は必要であろうというふうに考えておりますから、これはやっぱり確かに今までいろいろ見直してはきていたけれども、不足しておるということになっておると私は今回も感じております。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 朝倉町長。どうぞ、自席で。

○町長（朝倉浩平君） そのデータを見せるんじゃないかと、いかにまちづくりに資するかというのは、データを分析して、いかにまちづくりをしていくかというのが繁田議員のご質問じゃないかと思いません。

これにつきまして、いろいろデータはありますけれども、そのデータがびしゃっと整理されているかどうかはもう一回含めまして、そのデータをびしゃっとして、今後のまちづくりに生かすという方法を考えていきたいと思えます。

○議長（秦 時雄君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） ちょうど1年前、町長がそういうふうに言ったんです。1年間何もやっていないから、今度は私、1年後にもう一回質問して、お尋ねしますので、より具体的に本当に有効活用ができるような町独自の統計をぜひ考えていただきたいというふうに思います。

9月は防災月間ということで質問をいたしました。私は、やっぱり防災のときに一番何よりも皆さんが不安を抱くのは、情報の伝達ですよね。情報がうまく伝わらないという根幹は防災無線ですね。防災無線についてどういうふうになっているかということをもまず1点、進捗状況についてお尋ねしたいと思えます。

○議長（秦 時雄君） 藤林環境防災課長。

○環境防災課長兼基地対策室長（藤林民也君） 防災行政無線の更新につきましては、昨年12月議会の一般質問におきまして、現在検討を行っているところであり、各システムの特長、情報通信環境の確認、経費の把握、情報伝達の確実性等を検討しながら早急に防災行政無線システムの方向性を出していきたいと答弁してきたところでございます。各システムを比較した結果、担当課といたしましては、自営でのシステムを前提に災害時の断線等を考慮し、無線方式での整備が最適だとの考えによりまして、次の2案による整備を今後検討していきたいと考えております。

まず、第1案といたしましては、現在市販化されているデジタル同報系無線をベースとして、デジタルと地域コミュニティ無線を組み合わせる整備を行うシステムでございます。このシステムにつきましては、他の自治体においても導入実績もございます。デジタル無線は戸別受信機の単価が高く、電波も届きにくいと、中継局や屋外アンテナの設置等が必要となり、整備費が高額となりますが、地域コミュニティ無線は戸別受信機がデジタルよりも安く、中継局もデジタルより少なくて済むためコストダウンを図ることができます。

2案といたしましては、総務省が検討いたしておりますデジタルの低価格版システムの導入を行うものでございまして、現在、製品化されているデジタルシステムよりも受信エリアが広く、戸別受信機の外部アンテナが必要な世帯が減少するなどにより、2割程度整備費が低く抑えられるとのことでございます。

以上の2案を今後検討していきたいと考えておりますが、整備費用に大差がなければシステムを組み合わせる必要はなく、デジタル単独での整備を行うこととしたいと考えております。

財政措置につきましても、昨年12月以降、総務省等に新たな補助事業の動き等はございません。今後も低価格版システムの開発状況、市販化の動向を注視しながら、補助金の調査を含め、引き続き調査検討を行ってまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 13番 繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） 前回同じような質問をしましたが、それから若干進捗しておるといふふうを受けとめてよろしいですね。

先ほど防災月間で小幡議員さんが幾つか質問をされておりました。私、自席に防災の質問項目書を忘れましたので、自分で記憶した範囲内でちょっと質問させていただきます。

先ほど言いましたように、昭和28年に堤防が決壊して、もう大変な状況でした。今の堤防は果たして大丈夫なんだろうかということをおもいました。この九重町から引き継ぐ玖珠町内の間の堤防について、県の土木事務所や建設省、そして、町が一回独自に調査をしてみるのかどうかというふうなことをおもいました。それがまず1点。

それから、台風19号でしたか、全町停電して大変な被害に遭ったのは、あのときに思ったのが酪農家の人が停電して発圧もなくて、もう大変だったということをお聞きします。困ったときは必ず行政に町民の人は尋ねてきますから、そのことについて何か考えていることはあるかというのが2点目。

それから、これはもう一件頼まれたのは、今度台風が来たら、あそこの上の山の木が倒れてうちの家に当たるんじゃないだろうか、木が自分の家の木なら切ってするけれども、そういったときはどうしたらいいんですかというふうな3つ質問がありましたので、逐次質問の今3つについてお答えをしてください。

○議長（秦 時雄君） 藤林環境防災課長。

○環境防災課長兼基地対策室長（藤林民也君） 事前通告をいただいておりますので、わかる範囲でお答えをしたいと思います。

玖珠川の堤防についてということでご質問をいただいておりますが、玖珠川につきましては、大分県の1級河川ということで、大分県のほうが管理をいたしております。堤防の調査につきましては、過去、また今後調査の計画があるかどうか、また県の土木のほうに確認をさせていただきたいと思っております。

それから、停電の件でございましたが、本年も昨日台風15号によりまして町内、山浦、北山田、八幡、綾垣、それから、四日市、森、広範囲に停電が発生しておりました。たくさんの町民の方、事業者の方が被害を受けたわけですが、担当課といたしましては、停電の範囲、また、復旧の時期等、九電に確認を行って町民の方にお知らせする、先日の台風15号のときはそういう対応しかできませんでした。台風による停電につきましては、自己防衛の範疇じゃないかと考えております。それぞれ町民の方、また、事業者の方におきましては、対策について検討させていただきたいと考えております。

それから、倒木の被害についてですが、倒木につきましては、住民の方から環境防災課のほうに相談がございましたら、現地のほうを確認調査のほうは可能ではありますが、倒木等の伐採につきましては、個人の財産になりますので、倒木の持ち主の方、また、被害が及びそうな隣接地の方双方で話し合いをしていただいで、解決していただくことが基本だと考えております。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） 大体そういうふうにお答えしますわね。でも、町民の人というのは、すぐ話ができればいいけれども、なかなかそういったときにどうしても行政に頼らざるを得ないということもありますから、そういったときには、それなりにやはり適切な対応、さっき言ったようなアドバイスをきちっとしてあげるのが大切じゃないかなと。

それから、あれもそうですよ。停電してから困っているけん、酪農の人たちが言ったときは、防災担当課としてうちの町にはリース会社が何件あります。そこには大体大型の発電機が何台あります。いざとなったら、緊急措置で自衛隊にはどの程度の発圧が何台ありますかというぐらいの把握も常日ごろから一つはしておくことがさっき言ったように町民に対する安心と安全を保障する行政の、本来ならそこまでしなくてもいい、自己責任だと言われればそれで終わりですけども、それから先一步手を差し伸べるのが信頼をさらに拡幅する執行部になるのではないかというふうに思いますから、防災のときは思いやりを持ったような措置をお願いしたいというふうに思います。

最後であります。教科書採択に当たり、新年度中学校で使われる教科書の採択はどのようにして選ばれているかと。

先日、新聞を見ていましたら、「教科書の採択に政治はかかわるな」とのタイトルで記載されていました。来春の中学生の教科書の選定が行われたとお聞きしています。新聞には、採択はあくまでも教育委員会の権限で行うものだ、我が町の子供や学校にふさわしい教科書は何か、教育の観点から議論して選ぶことになっていると記載されています。

お尋ねしたいのは、我が町の教科書は誰が選んでいるのか、選ぶに当たり外部からの圧力があつたとか、そういったことはないのかということについてお尋ねをしたいというふうに思います。

教育委員会制度も大きく変わろうとしています。教育委員会の町長からの独立性というのは、町長が教育長や教育委員長を選び、任命するように変わっていきます。さらに、農業委員会も同様です。農業委員会、選挙管理委員会、教育委員会というこの3つは町長が不可侵の部分でありましたが、こちら辺がさらに権限が町長のほうに行ってしまうと、もう独断と偏見の町長になったら教育も農業委員会も大変なことになりますから、教育委員会に今回の教科書の選定に当たっては、そういった圧力はなかったかということについて1点お尋ねしたいというふうに思います。

○議長（秦 時雄君） 佐藤学校教育課長。

○学校教育課長（佐藤貴司君） 繁田議員のご質問にお答えいたします。

まず最初に、小中学校で使用する教科書の採択につきましてですが、通常4年ごとに実施され、昨年度小学校の採択がえが行われ、今年度中学校の採択がえが行われたところです。

さて、玖珠町立の小中学校で使用する教科書の採択についてですが、これは教科書採択に関する法律であります義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律によりまして、地域の自然的、経済的、文化的条件を考慮して、同じ教科書を使用することが適当と考えられる市町村の区域またはこれらの区域を合わせた地域を採択地区として、都道府県教育委員会が設定をすることになっております。これによりまして、大分県教育委員会は、玖珠町と九重町を一つの採択地区として設定しております。

そこで、玖珠町、九重町の両町教育委員会は、両町の教育委員及び両町の保護者で構成する玖珠地区の採択協議会を設置しております。その中で採択に関する協議を行っていくわけですが、適切な採択が確保できるように、教科書について専門的な知識を有する教員を調査員として委嘱し、委嘱した調査員にそれぞれの教科書について調査研究をしていただき、その報告書も参考にしながら協議を重ね、玖珠地区の採択協議会で共同採択をしています。この玖珠地区採択協議会における協議の結果に基づき、最終的に玖珠町教育委員会で採択を行い、小中学校で使用する教科書が決まっているところです。

質問にありましたが、政治的中立が保たれているかでございますが、教科書について先ほどお話ししましたが、専門的な知識を有する教員を調査員として委嘱し、調査員による十分かつ綿密な調査研究をもとに、児童生徒の実態や地域性を考慮して、教育委員会の責任のもと、公正、適正に教科書採

扱を行っているところでございます。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 13番繁田弘司君。

○13番（繁田弘司君） お尋ねしてよくわかりました。その新聞に書かれていましたようなことが全国的にあちこちで起こっているらしいと。ですから、我が町にはそういった政治的な圧力とかなかったのかということをお聞きしておりましたから、お聞きしてよくわかりましたので、今後もそういうふうな方向で取り組んでいただきたいと思いますというふうに思います。

以上をもちまして、私の質問を終わります。

○議長（秦 時雄君） 13番繁田弘司議員の質問を終わります。

皆様にお諮りします。

一般質問の進行が早くなっておりますけれども、休憩を入れずに進行してもよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（秦 時雄君） 異議なしと認めます。

次の質問者は、9番石井龍文君。

○9番（石井龍文君） 9番石井龍文です。

2期目に入り最初の質問となります。きょうは一般質問の機会をいただきまして、ありがとうございます。何分最終バッターでありますので、前の質問者がかなりの部分で質問を行いまして、なかなか内容が薄くなるかなという気がしていますが、質問したいと思います。

先日の台風15号では、玖珠町の近くを久しぶりに大型の台風が通過しました。農産物で一部梨等が落下するというような被害もあり、また、稲も倒伏するような部分もありましたが、建物被害という大きな被害はなく、安堵しておるところであります。

しかしながら、茨城県の鬼怒川の氾濫は、予想を超える降水量だったと推測されます。避難指示の発令のタイミングについては、非常に難しかったのではないかと感じております。上流のほうに先に避難指示を出し、その対応に追われながら下流で大きな被害が出たということで、玖珠町も北部九州豪雨の際に町初めての避難指示が出ました。このときもやはり行政は非常に苦慮したんじゃないかなという気がしております。また、被災された方々には心よりのお悔やみを申し上げますとともに、一日も早い復旧、復興を願ってやみません。

季節も早いもので9月半ばになりまして、寒暖の差がかなり夜間の気温が下がりました。秋の取り入れの時期となりました。今年は梅雨の長雨、夏場の長雨のために米のできは多少心配されるころであります。玖珠町の農産物はこれからも寒暖の差によりうまみが凝縮されていきます。非常に玖珠の農産物のおいしいものがたくさんとれてきます。

町長の27年度施政方針の産業の活性化で、基幹産業である農林業の生産性の向上や6次産業化に向けた取り組み、魅力ある特産品の開発など生産に対する支援策はいろいろと計画されていますが、販売についての施策が一部弱いような気がしておりますが、今後これについても、できるだけ施策を考

えていただきたいなと思います。ふるさと納税という全国的に広がっておりますが、玖珠町も非常に産品を多くし、農産物から特産品、非常にたくさんの品物を取りそろえて、これはまた玖珠町の経済に大きく寄与されるものだろうと期待しております。

それでは、本題に入りたいと思います。通告に従い、一問一答でよろしく願いいたします。

まず、観光客の誘致に向けた取り組みについてお伺いいたします。

町長の27年度施政方針の中で、「観光面では、観光資源として生かしていない素材を磨き、交流人口をふやすことに力を注いでまいります。具体的には、旧豊後森機関庫、森の街並みの拠点施設となる久留島記念館、若竹保育園跡地に予定している久留島武彦記念館、水戸岡鋭治氏によるグランドデザイン施設等、着実にまちづくりが動き始めているところです」とありますが、主要な施策の観光振興について玖珠町も大いに期待したデスティネーションキャンペーンも残り2週間となりましたが、途中経過として観光客の動きはどのような状態でありましたか、お伺いいたします。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 現在、DC期間中で7、8、9月の3カ月間、大分県と全国のJRが一致して大分に人を呼ぼうという形でやっておりますが、現在、お隣の九重町さん、由布市さんの担当課長さんと話をしているんですが、実際に由布市さん、九重さん、実際通常観光地としてされているところは、余りデスティネーションキャンペーンだからといってということは、ふえたということは言っておられませんが、当町につきましては、紛れもなくふえております。

というのは、実際今、旅行エージェント等が玖珠町を通過する旅行計画等の問い合わせがとても多くあります。湯布院に行く前に寄っていく、もしくは湯布院から帰るときに玖珠に寄るとかそういう動きが出てまいりました。観光ガイドの方々にお話を聞いても、機関庫、森の街並みガイド、旧久留島氏庭園のガイド、とてもガイドの数がふえて、正直うれしい悲鳴といいたいまいしょうか、人数が足りないと、ガイドをふやそうよという動きにも現在なっているところでございまして、当町におきましては、これまでにない人が動いているというふうに思っておりますので、ここから先は、やはり人が来ても経済効果、少しでもお金もうけという形になるんですが、現在皆さんから言われるのは、経済効果も必要だけれども、そこで観光的に素材の磨き上げをしている住民の皆さんで、お祭り等を行っている皆さんが楽しそうに次の子供たちにこの祭りをつなげるんだというふうに動いている姿、これが光なんだから、観光というのは光を見に来るんだから、そこで頑張っている人たちが楽しくやっている姿を見せなさいというのは、水戸岡先生、山口先生から現在言われているところでありますので、観光担当としましては、ここから先もDC期間中以後、10月以降もこの流れが続くように仕掛けをもくろんでいきたいというふうには考えているところです。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 9番石井龍文君。

○9番（石井龍文君） 9番石井です。

町長がいつも答弁の折に言います。私が観光地に行っても、トイレをして帰る。先ほどは逆を言い

ました。トイレをしても何かを買って帰るような仕掛けをしなければいけないと言われております。私もそれはもう絶対だと思います。ところが、今、村木課長が言いましたように、玖珠町は通過型の地区になりつつあるのかなという気がしております。

次に、交流人口をふやすという大きな町長が命題を出しておりますが、大体どの程度の交流人口を見込んでいるのでしょうか、お伺いします。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 先ほどの議員さんの中にもどの程度の目標値ということなのですが、観光分野につきましてはなかなか難しゅうございます。というのがよその市町村におきましては、有料の施設等がありまして、今月は何人来た、昨年は何人来たというデータがあるんですが、当町には有料の施設というのがほとんどございせん。過去には久留島武彦記念館については100円、200円とっておりましたので、データのあったんですが、現在うちにありますのは、やっぱり道の駅の利用者、レジ通過数並びに大分自動車道玖珠インターの通過ということでデータはあるので、少しそのデータについてお話しします。

前にも一度触れたことがあるんですが、現在、道の駅のレジ通過者数なんですが、これが大体26年度におきましては29万132名のレジ通過数がございまして、それから、過去このレジ通過数と来ている方を実際に人数チェックしたことがありまして、そのときに大体レジ通過数の約2.2倍の人が来ているということで、実際にこれを計算しますと、インター前の道の駅には年間63万8,290人の人が来ているということが推計されるところでございまして。

また、先ほど議員さんは通過型というふうに言われたんですが、大分自動車道の料金所の交通量なんですが、昨年、26年1月1日から26年12月31日の1年間のデータでございまして、入り口に入っていかけた車の量が49万8,233台で、出口、玖珠インターをおりる方が1年間で47万8,276台がおりられておりますので、入る、出るの入出の台数を計算しますと、97万6,509台の方があそこのインターを通過しているということです。

ちなみに先ほど申し上げました道の駅に来ている方のデータは、63万8,290人と申し上げましたが、この方が1人500円落としていただければ3億1,914万5,000円の収益になりますし、ちなみに1人1,000円落としていただければ6億3,829万円というような経済効果が見込めるわけなんですが、これのためには玖珠町のやはりお土産品、おもてなし、ここら辺の取り組みをしていかなければならないというふうに思っているところでございまして。

それともう一つ、どれだけ人が来ているのかというデータなんですが、おもてなしの中で玖珠町観光協会がまずガイドの受付をしますが、これは3年前、平成23年は団体数で7団体、270名ほどだったんですが、平成26年、昨年のガイド受け入れ人数は3,200人、約3年間で11.4倍に伸びております。これは現在、DC期間中まだ伸びておりますので、玖珠町としては、まだまだ観光的にはこれまで動いていない2周、3周おくれの観光的行政でございまして、取り組んでいけば先が望めるというふうに考えております。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 衛藤総合戦略室長。

○総合戦略室長（衛藤 正君） すみません。私のほうから現在進めています玖珠町版の総合戦略で、当然交流人口の増に向けた取り組みも取り入れていきたいと考え、重要な柱の一つとして考えております。その中で、現在町内施設の利用者数が年間32万5,000人と出ている数値に対しまして、今回の戦略により、5年後には35万人を目指したいという数値目標を現在設定しております。

それから、今回の補正予算に絡んで上げた上乗せ交付金の事業に関しまして、この事業を行うことにより年間観光客1万人増を目指したいということで、事業申請をしているところでございます。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 9番石井龍文君。

○9番（石井龍文君） 9番石井であります。

先ほど道の駅で32万人強通っていると。仮に宿泊施設がある程度充実しておれば、その方々が泊まったときにお土産、宿泊代込みで5,000円ぐらい落ちるかなと。これはちょっと大きいかなと思いますが、3,000円でもかなりの大きな額になるかなと思います。仮に1日1,000人、365日で36万5,000人来るような計算になるかなと思います。5,000人が5,000円消費していただければ1億8,250万円ぐらいにはなるかなというふうに思っています。

この中で、先ほどから昼前の質問の中で、デスティネーションキャンペーンが終了して、その後はどうするかという質問の中で、具体的に今から考えるんだというような回答があったような気がします。一番私が心配するのは、目的、目標に対して予算がついてくるんじゃないかなという気がします。今、機関庫等にかかり投資をしてきております。どの程度の目標値でこの事業を行おうとしているのか、どのくらいの予算を目標としているのか、そこら辺をお伺いします。

○議長（秦 時雄君） 穴本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（穴本芳雄君） 目標値ということだろうというふうに思うんですが、一昨年から水戸岡氏とのこの中で、デザインを提案していただくということでございまして、その目標値を掲げてのデザインということではございませんでしたので、そこらあたりの今、目標値というのはございません。

それから、目標額、整備目標額というのも、ですからそれによって、整備の内容によって異なりますので、そこらあたりは幾らにするという部分では持っておらないというところでございます。

○議長（秦 時雄君） 9番石井龍文君。

○9番（石井龍文君） ちょっと難しい質問だった、答えに難しい質問だったかなとは思いますが、非常に目標があって予算がついてくるんだろうというふうに思います。デザインをいただいて、それから、設計をかけて工事に入るので、どのくらいの予算になるかわからない、この部分は非常に不安な部分であります。町民もこれはやっぱり機関庫にそれだけ投資していいのかという意見はたくさん聞きます。しかし、観光行政に足を突っ込んだ以上は、これはやっぱりかなりの勢いで突き進まなけ

れば、先ほどスピード感がなければという質問もありましたが、私もそれは十分思います。

しかし、予算がどの程度出るのかというのは非常に怖く思っております。そこら辺のところは十分考えていただきたいと思いますが、志免町との姉妹都市ということであってありますが、姉妹都市、教育、文化、スポーツ、芸術、経済など幅広い分野です。それからまた、友好都市という表現もあります。都市間の特性を生かして、実質的な市民レベルでの交流という2種類のタイプがあるかなと思いますが、どちらにしても、志免町に対して、今S L 2961号が豊後森の機関庫に居座りました。豊後森機関庫公園の完成記念式典もいよいよ近まっております。

今、志免町の人口は4万5,286人です。町村では非常に大きい町であります。人口比率を見ますと、30代前後と60代前後が非常に多い、特に多いようです。このような町との交流ができれば、経済効果は非常に広い分野で期待が持てるのではないのでしょうか。機関庫の縁で交流が深まれば、これにこしたことはないのではないかと思います。非常にこういう機運の高まったときに交流の提携を結んで、お互いにいろんな交流ができれば経済効果も大きいんじゃないかなと思いますが、この件でお伺いいたします。

○議長（秦 時雄君） 穴本まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（穴本芳雄君） 志免町との姉妹都市構想ということのようでございますけれども、まず、現在行われております交流は友好地域としての交流で、福岡市長住地区などとも行われておりまして、姉妹都市を結んでの交流ではございません。

議員お尋ねの志免町でございますが、このご縁は、今おっしゃられたように志免町内に保存展示されておりましたS Lの移設が今年6月、豊後森機関庫公園内に移設されたということでございます。この移設によりまして、多くのお客様がこの玖珠町に観光にいらっしゃっていただくようになりまして、活気づいてもまいりました。このお客様の中には、志免町より修復されたS Lを見にいらっしゃる方もいるようでございまして、しかし、この玖珠町と志免町とのおつき合いというのはやっと始まったばかりでございまして、町民同士の交流もこれからだというふうにも考えておりますので、交流の進展によって今後検討していきたいと考えております。

また、志免町の前町長のほうも玖珠町との交流をかなり望んでおりましたので、そういう部分でもまた今後どのようになっていくか、進展によって検討していきたいというふうにも考えております。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 機関庫に移設設置が無事完了しましたS Lですが、ただいままちづくり推進課長のほうから交流のことを言ったんですが、現在、本当に志免町のS Lが来てから観光客の増等、これがやっぱり全国的なPRとなっております。いまだに何かすると必ずマスコミの方に上げていただいております。また、ボランティアガイドの方など住民の方々の盛り上がりもできておりますし、これにプラス豊後森駅のななつ星と或る列車の同時に見られるという形の分で、すごい人が来ております。

それと、先ほど議員もおっしゃられましたが、今回の件でご縁をいただいた志免町のほうからは、

約1時間ちょっとで行き来のできる距離でございます。先ほど議員さんもおっしゃれましたが、その志免町については、面積の割に人口が多く、日本一人口密度の高い町ということでお聞きしておりますし、現在、その志免町の方々から今後の都市と農村の交流についてご相談、ご提案をいただいているところであります。

それと、先ほど前町長がというふうに穴本が申し上げましたが、せんだって8月21日は志免町の議会議員さん、議長を初めおみえになられました。そのとき秦議長にもご挨拶をいただいたんですが、そんな中でも議員さんのほうから今後の交流をやりましょうという議員さんの力強いお話をいただきました。その後、8月28日には志免町の交流担当職員が実際に町のほうに来て、町を全部見て回り、夜お話しし、夜なべ談義をいたしまして、交流をやりましょうという状況になっているところであります。それともう一つ担当としてうれしいのは、今回志免町のSLを持ってきた後で、住民の方々がただ持ってきてほしいという要望だけじゃなくて、本当に持ってきてくれたので、掃除をしよう。前の志免町にあったような状況に持っていったら恥ずかしいということで、掃除をする団体の組織をつくっていただきました。この方々が先週9月13日の日曜日に約40名の方がおみえになって、朝8時からSLの掃除をしていただいて、その中でとてもまたよかったのがご本人だけでなく子供さんもしくはお孫さんも一緒にみえていただいて、から拭き雑巾を持って作業していただいて、みんなで楽しくやっけていただいております。

その会の方々によりますと、毎月第2日曜日の朝8時、冬場はちょっと時間を下げるようですが、やるというふうなお話も聞いておりますし、その日、同じく角牟礼の清掃活動もやられておりまして、森地区では青年層、お年寄りの方々、お年寄りと言っては失礼ですが、皆さんでやっております、それぞれの地域で皆さんが何か楽しそうに頑張っていていただいております、観光担当としましては、とてもうれしい限りです。今後とも一緒に協力して、協働でまちづくりを進んでまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 9番石井龍文君。

○9番（石井龍文君） 9番石井です。

ぜひとも前向きに進めていただきたいなと思います。いろいろ穴本課長が言われたように、余り慌ててしてもという部分もあるかとは思いますが、ふるさと納税という今新しいシステムで商品を送り届けるという部分はありますが、これは受け身でしかありません。納税をしてくれて、それに返すと。これでも珍珠の産品は出るのでありますが、志免町の方をこちらに呼んできて、珍珠で買い物をしてもらうという方策も非常にいいのではないかなという気がします。特に9月のイベント等に特典付きの招待券ぐらい100枚とか500枚とか1,000枚とか何か送ったら何人か来てくれるんじゃないかなという気がします。やっぱり来てもらえれば、農産物や特産品は少しでも売れていくんじゃないかなという期待があります。

また、珍珠町グリーンツーリズムという会があります。私や松本議員、宿利議員も会員であります

が、現在は北九州市の中学生の農泊体験学習をしております。これも志免町の中学生との交流ができれば、またこれも一つおもしろいかなという気がします。志免町立中学校が全校生徒850人ぐらい、それから、志免町立東中学校でしたか、約450名ぐらいの学校だと思います。そういう学校の生徒が来て、玖珠町の宣伝もできるんじゃないかなという思いがあります。ぜひとも重ねてであります、前向きに検討していただきたいなと思います。

次に、交流宿泊施設の充実、整備についてであります、先ほどの繁田議員とも重なっております。

三日月の滝公園で今度、補正予算の中でトイレやエアコンの整備というのが上がっております。もう築18年になっておりますので、非常に中の設備は傷んできております。ぜひともこの予算を通してもらいたい、これはもう国が通さない可能性もありますが、もしそうなったときでも何とか予算をつくってでも、これやっぱり施設がある程度整備ができないと、お客が来ても非常に期待外れで帰ってしまうという気がします、そこら辺のご回答をお願いします。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） 三日月の滝温泉公園施設、先ほど繁田議員のときにも一応回答したんですが、平成9年に設置しております。約20年近くになりつつあって、施設の老朽化、特にエアコン並びにトイレの部分が都会から来た方がちょっと和式等になっておりますので、その辺があるようですが、やはり現在あの施設の運営について、温泉の温度が低いのと、それを重油を炊いて加温をするという形でする場合は、すごい燃料代がかかっておりまして、通常やりますと、温泉の入湯料金よりも経費のほうがかかるという形で、現在はゴールデンウィーク、夏場と現在、人が来る時期でやっていただいておりますが、やはり施設の老朽化ということと、もう一つは、夏場に電気、エアコン等を使います。

電気料金の設定というのは、年間のうち一番高い時期を基本に次の年の基本料金が決まりますので、三日月の滝は、冬場等は利用がないんですが、基本料金は夏場の一番高いところを設定という形になるので、どうしてもここがネックになっておりまして、今回国の進める地方創生まち・ひと・しごとの中で、一応知恵を出して取り組めば、普通よそがやらないようなことをやれば予算が使えるということなので、大変ハードルは厳しいようございますが、うちとしては三日月の滝を都市と農村の交流施設ということで、先ほど議員からご質問ありますが、今回は志免町、これまではこの町みんな来てくださりにしていたんですが、ターゲットを絞って志免町プラス今回つながりが深まっております山口先生のおつき合いの中の福岡大学、九州大学、九州産業大学、NPO法人等の方々と連携をとって、施設の有効利用を考えていきたいというふうに今現在考えているところでありまして、相手方のNPO法人さんのほうも玖珠町の環境、自然、空気と場所、1時間程度ちょっとで疲れない距離ということで、とても興味を抱いていただいておりますので、何とかこれからの連絡調整をうまくしまして、取り組んでまいりたいというふうに考えているところであります。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 9番石井龍文君。

○9 番（石井龍文君） 9番石井です。

温泉のことを先に言われましたが、温泉が非常に大事だと思います。私が昨年一般質問の中で、今、大分県が温泉県というキャッチフレーズで全国的に売り込みをしている。この中で何か温泉の掘りかえ事業はないかという質問をいたしました。その折には、今のところないという回答でありましたが、何かこういう事業に引っかけてでも引っ張ってこれないかなという気がします。温泉があれば、やっぱり宿泊客も安心して来れるようになると思います。今非常に宿泊客が減っております。そこら辺で何か温泉県対策としてなかったものでしょうか、お伺いします。

○議長（秦 時雄君） 村木商工観光振興課長。

○商工観光振興課長（村木賢二君） この温泉の件につきましては、担当課としてもとても苦慮しておりますが、日田の保健所のほうに玖珠町内の温泉台帳等がございまして、この周辺をどのくらい掘って、どのくらい出ているかも確認いたしました。

現在、三日月の滝が700メートル掘って、温度は34度ぐらいのようで、当初は40度を超えていたようなんですが、20年近く前に掘っておりますので、中に水が混じっていたり岩盤があったりなんですが、当時掘ったときは町が掘ったではありません。地元の方々が掘っておりますので、その辺の設計なり内容なりが現在正直言ってないところでありまして、プロのそういう審査のできる場所に相談をいたしました。温泉が出ることは間違いないんですが、温度についてちょっと確信が持てないということも言われているんですが、現在、玖珠川沿いのところを掘れば、先ほども1,000掘れば必ず出るといふうに言われているんですが、現在のところ700ですので、それより手前でも出るんじゃないかということも言われるんですが、補助金等いろいろ検討したんですが、まずそれは厳しいようございまして、今回福岡方面の方を受け入れる際についても、温泉はやっぱり必要ですね。温泉があつて少し加温するぐらいであれば問題ないんだけど、何かその辺は手だてをしたほうがいいですねというのは言われておりますし、ちょっとその件については当町としても検討をこれからもしていきたいというふうには思っているところであります。

以上です。

○議長（秦 時雄君） 9番石井龍文君。

○9 番（石井龍文君） 9番石井です。

これもやっぱり施設の存続については、非常に必要性があるかなという思いはしています。ぜひとも前向きに検討していただきたいと思います。

それから、カウベルランドにしても宿泊の部分が多少ありますし、交流人口がふえるということになれば、やっぱり受け皿が必要になってきます。そこら辺でその対策としても、やっぱりこういう既存の施設が充実して、お客様を受け入れることができるようになることがこれからの受け入れ態勢の拡充につながるかなという気がします。最少の予算で最大の効果を出してほしいというのが町民の思いであると思いますので、今後とも行政の皆さんのさらなる努力をご期待申し上げまして、今回の質問を終わります。ありがとうございます。

○議 長（秦 時雄君） 9番石井龍文議員の質問を終わります。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

なお、あす16日から17日の2日間は、議案考察のため休会といたしたいと思いますが、異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議 長（秦 時雄君） 異議なしと認めます。

よって、あす16日から17日までの2日間は議案考察のため休会、18日は閉会日となります。

本日はこれにて散会いたします。

ご協力ありがとうございました。

午後2時55分 散会

地方自治法第123条第2項の規定によりここに署名する。

平成27年9月15日

玖 珠 町 議 会 議 長 秦 時 雄

署 名 議 員 小 幡 幸 範

署 名 議 員 高 田 修 治